

# 授 業 概 要

## ～こども福祉学科～

講師名右に※印がついてる者は、科目に関する実務経験を有する職員である。

必修 科目	授 業 科目名	心理学と心理的支援	担 当 教 員	大西 祝		
	授業方法	講義	開講期・年次	前期・1年次	単 位	2
<p><b>授業目標</b></p> <p>現在、心理学は、人間の全身のシステムについて広範な研究が行われている。本講義においては、現在までの心理学に関するさまざまな基礎知識を整理し、国家試験に出題例が多い重要な概念や理論について理解することと、将来的にソーシャルワークの現場で必要とされる知識や技能についても把握し、現代社会の中で問題となっている多くの出来事についても関心を持ち、それらの問題への参照となるような有機的な知識を身につけるような学習を展開する。</p> <p><b>授業内容の計画（15コマ）</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 心理学とは</li> <li>2 人間の心理学的理解（性格）</li> <li>3 人間の心理学的理解（感情）</li> <li>4 人間の心理学的理解（欲求・動機付けと行動）</li> <li>5 人間の心理学的理解（感覚・知覚・認知）</li> <li>6 人間の心理学的理解（学習・記憶）</li> <li>7 人間の心理学的理解（知能・創造性・思考）</li> <li>8 人間環境と集団</li> <li>9 対人交流とコミュニケーション</li> <li>10 発達概念</li> <li>11 発達の障害</li> <li>12 適応とストレス</li> <li>13 見立て・面接・心理療法</li> <li>14 心理査定・診断</li> <li>15 心と脳</li> </ol>						
成 績 評 価 ( 基 準 )		<p>総合評価と出席日数の両方が次の規定に達した場合に認定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合評価は60点以上を合格点とする。</li> <li>・所定の時間数の3分の2以上の出席が必要。</li> </ul> <p>※評価基準 定期試験80%、授業への意欲度20%</p>				
教室外での 学習について						
教 科 書		『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座2 心理学と心理的支援』（中央法規出版）				
参 考 書						
担当者からの メッセージ						

必修 科目	授 業 科目名	社会学と社会システム	担 当 教 員	藤原 真名夫																																		
	授業方法	講義	開講期・年次	後期・1年次	単 位	2																																
<p><b>授業目標</b></p> <p>われわれは社会の中で生活している。社会は日常的に私たちのすぐ横にある。この当たり前事象。しかし、この身近なはずの社会は改めて眺めてみると思いのほか不思議に立ち満ちています。これらの謎を探る先人達の努力、そのヒントや考察のための道具について考えていきたいと思えます。社会における様々な事象を、「当たり前」、「常識」で流してしまうのではなく、ふと立ち止まって眺め、考えてみることを「社会学」の第1歩としましょう。社会的な福祉領域における社会学の意義とは、状況や問題といった目の前に現れてくる「ありのままの現実」をかなう限りそのままに捉え、さらに、その「現実」の生じてくる原因やプロセスを探っていくことにあるのではないのでしょうか。古今の社会学者たちは、こうした「現実」の裏側を探るツールを様々な考察・考案してきたわけですが、残念ながら完全なるツールは見つかってはおりません。みなさんが先人達の知恵をふまえ、今後の生活・職場の中でそれを発展展開させる実践としての社会学を「おこなって」いかれる事を期待いたします。</p> <p><b>授業内容の計画（15コマ）</b></p> <table border="0"> <tr> <td>1</td> <td>イントロダクション</td> <td>9</td> <td>社会構造 1</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>社会学史 1</td> <td>10</td> <td>社会構造 2</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>社会学史 2</td> <td>11</td> <td>産業</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>社会学史 3</td> <td>12</td> <td>生活 1</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>自己と他者</td> <td>13</td> <td>生活 2</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>家族 1</td> <td>14</td> <td>組織</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>家族 2</td> <td>15</td> <td>社会的課題</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>地域</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>							1	イントロダクション	9	社会構造 1	2	社会学史 1	10	社会構造 2	3	社会学史 2	11	産業	4	社会学史 3	12	生活 1	5	自己と他者	13	生活 2	6	家族 1	14	組織	7	家族 2	15	社会的課題	8	地域		
1	イントロダクション	9	社会構造 1																																			
2	社会学史 1	10	社会構造 2																																			
3	社会学史 2	11	産業																																			
4	社会学史 3	12	生活 1																																			
5	自己と他者	13	生活 2																																			
6	家族 1	14	組織																																			
7	家族 2	15	社会的課題																																			
8	地域																																					
成績評価 (基準)	総合評価と出席日数の両方が次の規定に達した場合に認定する。 ・総合評価は60点以上を合格点とする。 ・所定の時間数の3分の2以上の出席が必要。 ※評価基準 定期試験 80%、授業への意欲度 20%																																					
教室外での 学習について	日常への観察眼は大切です。「当たり前」は捨ててください。																																					
教科書	適宜、資料を配布する																																					
参考書	『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座2 社会学と社会システム』（中央法規出版） 授業内にて適宜紹介予定																																					
担当者からの メッセージ	社会について身近なところから考えていきましょう。 苦手意識のある方も肩肘張らずに参加できる授業を目指します。																																					

必修 科目	授 業 科目名	医学概論	担 当 教 員	川崎 詔子		
	授業方法	講義	開講期・年次	前期・1年次	単 位	2
<b>授業目標</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 身体構造と心身の機能、人の成長と発達、その共通性・個性を理解する。</li> <li>2 疾病・障害・リハビリテーションの概要を理解する。</li> <li>3 国際生活機能分類（ICF）の基本的な考え方と健康のとらえ方を理解する。 上部を習得し福祉支援の礎とする。</li> </ol> <b>授業内容の計画（15コマ）</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 人の成長・発達 I</li> <li>2 人の成長・発達 II</li> <li>3 身体構造と心身の機能 I</li> <li>4 心身構造と心身の機能 II</li> <li>5 疾病の概要 I</li> <li>6 疾病の概要 II</li> <li>7 疾病の概要 III</li> <li>8 疾病の概要 IV</li> <li>9 障害の概要 I</li> <li>10 障害の概要 II</li> <li>11 障害の概要 III</li> <li>12 リハビリテーションの概要</li> <li>13 国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方と概要</li> <li>14 健康のとらえ方 I</li> <li>15 健康のとらえ方 II</li> </ol>						
成 績 評 価 ( 基 準 )		総合評価と出席日数の両方が次の規定に達した場合に認定する。 ・総合評価は60点以上を合格点とする。 ・所定の時間数の3分の2以上の出席が必要。 ※評価基準 定期試験 80%、授業への意欲度 20%				
教室外での 学習について						
教 科 書		『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 1 医学概論』（中央法規出版）				
参 考 書						
担当者からの メッセージ						

必修 科目	授 業 科目名	英語	担 当 教 員	生野 愛奈																																																														
	授業方法	講義	開講期・年次	通年・1年次	単 位	2																																																												
<p><b>授業目標</b></p> <p>日本語を母語としない子どもや保護者の増加、グローバルに活躍できる人材育成に力を入れている現状に伴い、英語を用いた活動を取り入れている保育園も多くなっている。本講座では、保育にかかわる英単語・簡単な英会話を学ぶこと、英語の絵本を用いた活動の計画作成及びプレゼンテーションを通じて、自身の知識と保育士としての幅を広げることがをめざす。また、保育士を目指す者として、「コミュニケーションとは何か」「文化とは何か」について考え、子どもたち一人ひとりと向き合う姿勢の土台をつくってほしい。</p> <p><b>授業内容の計画（30コマ）</b></p> <table border="0"> <tr><td>1</td><td>オリエンテーション</td><td>1 6</td><td>トイレに関する表現</td></tr> <tr><td>2</td><td>自己紹介・保育園に関わる表現</td><td>1 7</td><td>命令文・let を使った表現（1）</td></tr> <tr><td>3</td><td>時間・数の表現</td><td>1 8</td><td>命令文・let を使った表現（2）</td></tr> <tr><td>4</td><td>地図・道案内の表現</td><td>1 9</td><td>体の部位に関する表現</td></tr> <tr><td>5</td><td>子どもの遊びに関する表現（1）</td><td>2 0</td><td>怪我・病院等に関する表現</td></tr> <tr><td>6</td><td>子どもの遊びに関する表現（2）</td><td>2 1</td><td>電話対応の表現</td></tr> <tr><td>7</td><td>天候・感情に関する表現（1）</td><td>2 2</td><td>交通機関に関する表現</td></tr> <tr><td>8</td><td>天候・感情に関する表現（1）</td><td>2 3</td><td>季節の表現・if を使った表現</td></tr> <tr><td>9</td><td>保育者の仕事に関する表現（1）</td><td>2 4</td><td>赤ちゃんに関する表現（1）</td></tr> <tr><td>1 0</td><td>保育者の仕事に関する表現（2）</td><td>2 5</td><td>赤ちゃんに関する表現（2）</td></tr> <tr><td>1 1</td><td>給食・食事・調理法に関する表現</td><td>2 6</td><td>卒園に関する表現</td></tr> <tr><td>1 2</td><td>英語歌・絵本等を用いた活動</td><td>2 7</td><td>英語歌・絵本等を用いた活動</td></tr> <tr><td>1 3</td><td>前期のまとめ</td><td>2 8</td><td>後期のまとめ</td></tr> <tr><td>1 4</td><td>前期末テスト準備</td><td>2 9</td><td>後期末テスト準備</td></tr> <tr><td>1 5</td><td>プレゼンテーション</td><td>3 0</td><td>プレゼンテーション</td></tr> </table> <p>※計画は学生の習得度等に応じ、適宜変更する。</p>							1	オリエンテーション	1 6	トイレに関する表現	2	自己紹介・保育園に関わる表現	1 7	命令文・let を使った表現（1）	3	時間・数の表現	1 8	命令文・let を使った表現（2）	4	地図・道案内の表現	1 9	体の部位に関する表現	5	子どもの遊びに関する表現（1）	2 0	怪我・病院等に関する表現	6	子どもの遊びに関する表現（2）	2 1	電話対応の表現	7	天候・感情に関する表現（1）	2 2	交通機関に関する表現	8	天候・感情に関する表現（1）	2 3	季節の表現・if を使った表現	9	保育者の仕事に関する表現（1）	2 4	赤ちゃんに関する表現（1）	1 0	保育者の仕事に関する表現（2）	2 5	赤ちゃんに関する表現（2）	1 1	給食・食事・調理法に関する表現	2 6	卒園に関する表現	1 2	英語歌・絵本等を用いた活動	2 7	英語歌・絵本等を用いた活動	1 3	前期のまとめ	2 8	後期のまとめ	1 4	前期末テスト準備	2 9	後期末テスト準備	1 5	プレゼンテーション	3 0	プレゼンテーション
1	オリエンテーション	1 6	トイレに関する表現																																																															
2	自己紹介・保育園に関わる表現	1 7	命令文・let を使った表現（1）																																																															
3	時間・数の表現	1 8	命令文・let を使った表現（2）																																																															
4	地図・道案内の表現	1 9	体の部位に関する表現																																																															
5	子どもの遊びに関する表現（1）	2 0	怪我・病院等に関する表現																																																															
6	子どもの遊びに関する表現（2）	2 1	電話対応の表現																																																															
7	天候・感情に関する表現（1）	2 2	交通機関に関する表現																																																															
8	天候・感情に関する表現（1）	2 3	季節の表現・if を使った表現																																																															
9	保育者の仕事に関する表現（1）	2 4	赤ちゃんに関する表現（1）																																																															
1 0	保育者の仕事に関する表現（2）	2 5	赤ちゃんに関する表現（2）																																																															
1 1	給食・食事・調理法に関する表現	2 6	卒園に関する表現																																																															
1 2	英語歌・絵本等を用いた活動	2 7	英語歌・絵本等を用いた活動																																																															
1 3	前期のまとめ	2 8	後期のまとめ																																																															
1 4	前期末テスト準備	2 9	後期末テスト準備																																																															
1 5	プレゼンテーション	3 0	プレゼンテーション																																																															
成 績 評 価 ( 基 準 )	<p>総合評価と出席日数の両方が次の規定に達した場合に認定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合評価は60点以上を合格点とする。</li> <li>・所定の時間数の3分の2以上の出席が必要。</li> </ul> <p>※評価基準 定期試験 80%、授業への意欲度 20%</p>																																																																	
教室外での 学習について	特になし																																																																	
教 科 書	『保育の英会話<第2版>』（萌文書林） その他、英語の歌や絵本等を使用する。その際はプリントにて配布する。																																																																	
参 考 書																																																																		
担当者からの メッセージ																																																																		

必修 科目	授 業 科目名	保育原理	担 当 教 員	村上 優子		
	授業方法	講義	開講期・年次	前期・1年次	単 位	2
<p><b>授業目標</b></p> <p>保育士は、個人的な経験や感情によって保育をするのではなく、理論的根拠、学問的背景に基づいて、自らの保育を実践していかなければなりません。つまり、より広い冷静な視点から子どもや保育について考え、よりよい保育のあり方を模索していく力が求められます。本講義では、保育について、歴史・方法・環境・計画などについて、保育をする上で必要な基本的事項を学びます。先人の思想や心理学・教育学などの学術的知見、また、現場の実践から見出された知見から、保育の意義や目的、子どもの発達の特徴を学び、自分の「保育観」の確立に向けた第一歩として、よりよい育ちの為にどのような援助が必要か、保育者の役割を深く理解する事を目的とします。</p> <p><b>授業内容の計画（15コマ）</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 保育の理念と概念</li> <li>2 保育の社会的役割と責任</li> <li>3 子ども・子育て支援新制度と保育にかかわる関係法令</li> <li>4 保育の実施体系</li> <li>5 保育所保育指針に基づく保育</li> <li>6 保育の目標と方法</li> <li>7 乳児の保育</li> <li>8 1歳以上3歳未満児の保育</li> <li>9 3歳以上の保育</li> <li>10 子ども理解に基づく保育の過程①理論編</li> <li>11 子ども理解に基づく保育の過程②実践編</li> <li>12 諸外国の保育の思想と歴史</li> <li>13 日本の保育の思想と歴史</li> <li>14 保育の現状と課題</li> <li>15 まとめ</li> </ol>						
成 績 評 価 ( 基 準 )		<p>総合評価と出席日数の両方が次の規定に達した場合に認定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合評価は60点以上を合格点とする。</li> <li>・所定の時間数の3分の2以上の出席が必要。</li> </ul> <p>※評価基準 定期試験 80%、授業への意欲度 20%</p>				
教室外での 学習について						
教 科 書		『新・基本保育シリーズ① 保育原理』（中央法規出版）				
参 考 書		授業内で適宜紹介する				
担当者からの メッセージ						

必修 科目	授 業 科目名	子ども家庭福祉	担 当 教 員	黒田 将史※		
	授業方法	講義	開講期・年次	前期・1年次	単 位	2
<b>実務経験のある教員等による科目</b> 子ども家庭福祉の理念を基に、児童の最善の利益が優先された支援とは何か具体的な事例を踏まえ、授業を展開していく <b>授業目標</b> 平成 28 年に児童福祉法の理念が、本法が制定された昭和 22 年以来はじめて見直されて、「児童が権利の主体であること」、「児童の最善の利益が優先されること」が明確化された。そのような状況での現代社会における子ども家庭福祉の課題やニーズ、さらには歴史的変遷について学ぶことを通し、子ども家庭福祉の理念や子どもの人権擁護についての意義について理解を深める。そしてそれらの理念を実現するためのこども基本法や児童福祉法をはじめ、その他の子ども家庭福祉の制度（法・サービス）や実施体系等に関する知識を身に習得することで、子ども家庭福祉における社会資源を活用し包括的な視点をもって支援できるようになることを目標とする。						
<b>授業内容の計画（15コマ）</b> 1 子ども家庭福祉の理念 2 子ども家庭福祉の歴史的変遷と諸外国の動向 3 子どもの人権擁護 4 子ども家庭福祉の制度 5 子ども家庭福祉の施設と専門職 6 少子化と地域子育て支援（子ども・子育て支援法） 7 母子保健と子どもの健全育成 8 多様な保育（教育・保育施設、地域型保育事業等）ニーズへの対応 9 子ども虐待・支援の現状、防止対策・女性支援 10 貧困家庭、外国籍の子どもとその家庭への対応 11 社会的養護① 12 社会的養護② 13 障がいのある児童への対応 14 少年非行等への対応 15 次世代育成支援と子ども家庭福祉の推進や地域における連携とネットワーク						
成 績 評 価 ( 基 準 )	総合評価と出席日数の両方が次の規定に達した場合に認定する。 ・総合評価は 60 点以上を合格点とする。 ・所定の時間数の 3 分の 2 以上の出席が必要。 ※評価基準 定期試験 80%、授業への意欲度 20%					
教室外での 学習について						
教 科 書	『新・基本保育シリーズ③子ども家庭福祉 第 2 版』（中央法規出版）					
参 考 書	授業内で適宜紹介する					
担当者からの メ ッ セ ー ジ	児童・家庭の生活実態、取り巻く社会情勢、問題（ニーズ）に興味・関心を持ち、包括的な視点をもって「保育士として子どもの成長に向けて出来ることは何か」を一緒に考えていきましょう。					

必修 科目	授 業 科目名	社会福祉	担 当 教 員	小保方 敬子		
	授業方法	講義	開講期・年次	前期・1年次	単 位	2
<p><b>授業目標</b></p> <p>昨今の社会福祉および保育をめぐる情勢をふまえ、保育士に求められる役割について学ぶ。  具体的には、現代社会における社会福祉の意義や歴史の変遷、社会福祉の制度や実施体系・相談援助や利用者の保護にかかわる仕組みなどを学ぶ。  「社会福祉とは何か」について理解を深め、今後の動向や課題について整理することを目指す。  他科目と関係づけながら学ぶことを目標とする。</p> <p><b>授業内容の計画（15コマ）</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 現代社会における社会福祉の意義（社会福祉の理念と概念）</li> <li>2 社会福祉の歴史の変遷Ⅰ</li> <li>3 社会福祉の歴史の変遷Ⅱ</li> <li>4 子ども家庭支援と社会福祉</li> <li>5 社会福祉の制度と法体系</li> <li>6 社会福祉行財政と実施機関、社会福祉施設</li> <li>7 社会福祉の専門職、社会保障及び関連制度の概要</li> <li>8 相談援助の理論、意義と機能</li> <li>9 相談援助の対象と過程、方法と技術</li> <li>10 社会福祉における利用者の保護にかかわる仕組み（情報提供、第三者評価、苦情解決制度など）</li> <li>11 社会福祉の動向と課題（少子高齢化社会における子育て支援）</li> <li>12 社会福祉の動向と課題（共生社会の実現と障害者施策）</li> <li>13 社会福祉の動向と課題（在宅福祉・地域福祉の推進）</li> <li>14 社会福祉の動向と課題（諸外国の社会福祉の動向）</li> <li>15 まとめ（総括）</li> </ol>						
成 績 評 価 ( 基 準 )		総合評価と出席日数の両方が次の規定に達した場合に認定する。 ・総合評価は60点以上を合格点とする。 ・所定の時間数の3分の2以上の出席が必要。 ※評価基準 定期試験80%、授業への意欲度20%				
教室外での 学習について						
教 科 書		『新・基本保育シリーズ④ 社会福祉 【第2版】』（中央法規出版）				
参 考 書		『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 第4巻 社会福祉の原理と政策』（中央法規出版）				
担当者からの メ ッ セ ー ジ		社会福祉に興味・関心をもって頂くきっかけになる授業を目指します。 「社会福祉とは何か」について、一緒に考えていきましょう。				



必修 科目	授 業 科目名	社会的養護 I	担 当 教 員	村江 昇		
	授業方法	講義	開講期・年次	前期・1年次	単 位	2
<p><b>授業目標</b></p> <p>児童福祉における社会的養護の概念について理解し、その根本的な考え方である理念や原理について学び、保育士としての専門知識や技術を修得します。専門的知識や技術として、社会的養護の歴史・体系・法律・制度及び方法（実践）を学習するとともに各種児童福祉施設や里親等の機能と内容及び保育士としての社会的役割・使命を理解し、子どもの養育・支援の在り方を学びます。</p> <p><b>授業内容の計画（15コマ）</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 社会的養護を学ぶにあたり授業の目的、内容や授業の進め方について及び社会的養護の理念と概念</li> <li>2 社会的養護の歴史の変遷</li> <li>3 子どもの人権擁護と社会的養護</li> <li>4 社会的養護の基本原則</li> <li>5 社会的養護における保育士等の倫理と責務</li> <li>6 社会的養護の制度と法体系</li> <li>7 社会的養護のしくみと実施体系</li> <li>8 社会的養護とファミリーソーシャルワーク</li> <li>9 家族養護の対象と支援のあり方</li> <li>10 家族擁護と施設養護</li> <li>11 社会的養護にかかわる社会的状況</li> <li>12 社会的養護に関する社会的状況</li> <li>13 施設等の運営管理の現状と課題</li> <li>14 被措置児童等の虐待防止の現状と課題</li> <li>15 社会的養護と地域福祉の現状と課題及びまとめ</li> </ol>						
成 績 評 価 ( 基 準 )		<p>総合評価と出席日数の両方が次の規定に達した場合に認定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合評価は60点以上を合格点とする。</li> <li>・所定の時間数の3分の2以上の出席が必要。</li> </ul> <p>※評価基準 定期試験 80%、授業への意欲度 20%</p>				
教室外での 学習について						
教 科 書		『新・基本保育シリーズ⑥ 社会的養護 I 【第2版】』（中央法規出版）				
参 考 書						
担当者からの メ ッ セ ー ジ		児童の権利に関する条約に掲げられている「子どもの最善の利益」についてともに考えていきましょう。				

必修 科目	授 業 科目名	保育の心理学	担 当 教 員	小川 万希子		
	授業方法	講義	開講期・年次	後期・1年次	単 位	2
<p><b>授業目標</b></p> <p>子どもの発達に関する心理学諸理論を学び、基礎的な知識を習得することを通じて、「発達的な見方」の基礎を培うことを目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解する。</li> <li>2 子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深める。</li> <li>3 乳幼児期の子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人と相互の関わりや体験、環境の意義を理解する。</li> </ol> <p><b>授業内容の計画（15コマ）</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 子どもの発達を理解することの意義</li> <li>2 子どもの発達と環境</li> <li>3 発達理論と子ども観・保育観</li> <li>4 保育実践を評価する</li> <li>5 社会情動的発達①自我</li> <li>6 社会情動的発達②他者</li> <li>7 社会情動的発達③他者とのかかわり</li> <li>8 身体的機能と運動機能の発達</li> <li>9 認知の発達</li> <li>10 数の認識の発達</li> <li>11 言語の発達</li> <li>12 乳幼児期の学びに関わる理論</li> <li>13 社会情動的学び</li> <li>14 認知的学び</li> <li>15 乳幼児期の学びを支える保育</li> </ol>						
成 績 評 価 ( 基 準 )		<p>総合評価と出席日数の両方が次の規定に達した場合に認定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合評価は60点以上を合格点とする。</li> <li>・所定の時間数の3分の2以上の出席が必要。</li> </ul> <p>※評価基準 定期試験 80%、授業への意欲度 20%</p>				
教室外での 学習について		<p>講義で学んだことを基礎として、日常生活の中で人を「発達的な見方」で観察してもらいたい。また、できる限り新聞・報道に関心を持つこと。</p>				
教 科 書		『新・基本保育シリーズ⑧ 保育の心理学』（中央法規出版）				
参 考 書		『子どもの心の発達がわかる本』（講談社） 『ちゃんと泣ける子に育てよう』（河出書房新社） 『発達がわかれば子どもが見える』（ぎょうせい）				
担当者からの メ ッ セ ー ジ		授業の中で、重要なテーマをあげて課題を提出してもらいます。				

必修 科目	授 業 科目名	子どもの保健	担 当 教 員	川崎 詔子		
	授業方法	講義	開講期・年次	前期・1年次	単 位	2
<p><b>授業目標</b></p> <p>子どもの保健とは、からだと心の健康を保ち、増進するためにおこなう専門的な行為です。専門的な行為ですから、その裏には知識と技術が必要となります。</p> <p>この科目では、子どもの身体発育や生理機能の特性、子どもの健康状態とその把握、疾病とその予防・対応などの保健対応に必要な基礎的な事項を学びます。</p> <p><b>授業内容の計画（15コマ）</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 生命の保持と情緒の安定にかかる保健活動の意義と目的</li> <li>2 健康の概念と健康指表</li> <li>3 現代社会における子どもの健康に関する現状と課題</li> <li>4 地域における保健活動と子ども虐待防止</li> <li>5 身体発育及び運動機能の発育と保健</li> <li>6 生理機能の発育と保健</li> <li>7 健康状態の観察および心身の不調の早期発見</li> <li>8 発育・発達の把握と健康診断</li> <li>9 保護者との情報共有</li> <li>10～14 主な疾病の特徴</li> <li>15 子どもの疾病の予防と適切な対応</li> </ol> <p>授業進行は前後する場合があります。</p>						
成 績 評 価 ( 基 準 )		<p>総合評価と出席日数の両方が次の規定に達した場合に認定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合評価は60点以上を合格点とする。</li> <li>・所定の時間数の3分の2以上の出席が必要。</li> </ul> <p>※評価基準 定期試験 80%、授業への意欲度 20%</p>				
教室外での 学習について		予定しておりません。				
教 科 書		『新・基本保育シリーズ⑩ 子どもの保健』（中央法規出版）				
参 考 書		なし				
担当者からの メ ッ セ ー ジ		子どもの健康を守るために必要な知識を学びます。				

必修 科目	授 業 科目名	保育の計画と評価	担 当 教 員	村上 優子		
	授業方法	講義	開講期・年次	後期・1年次	単 位	2
<p><b>授業目標</b></p> <p>豊かな保育内容の構築の為に、保育の計画は必要であり、その作成について学ぶ。教育課程の編成、全体的な計画、長期・短期指導計画の作成について具体的に理解を深めると共に計画と実践の関連性、評価、振り返り、改善について学び、考察する。</p> <p><b>授業内容の計画（15コマ）</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 保育における計画の意義</li> <li>2 日本におけるカリキュラムの基礎理論</li> <li>3 子ども理解に基づく保育の循環</li> <li>4 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の性格と位置づけ・改定（訂）内容</li> <li>5 幼稚園の教育課程の編成の基本原理と方法</li> <li>6 保育所・認定こども園等の全体的な計画の作成の基本原理と方法</li> <li>7 全体的な計画の作成</li> <li>8 保育所・認定こども園の指導計画の作成</li> <li>9 保育の評価</li> <li>10 指導計画の書き方</li> <li>11 0歳児の指導計画</li> <li>12 1歳以上3歳未満児の指導計画</li> <li>13 3歳児・4歳児の指導計画</li> <li>14 5歳児の指導計画</li> <li>15 小学校との接続</li> </ol>						
成 績 評 価 ( 基 準 )		<p>総合評価と出席日数の両方が次の規定に達した場合に認定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合評価は60点以上を合格点とする。</li> <li>・所定の時間数の3分の2以上の出席が必要。</li> </ul> <p>※評価基準 定期試験 80%、授業への意欲度 20%</p>				
教室外での 学習について		実習の機会に保育の計画の実際を学習する				
教 科 書		<p>『新・基本保育シリーズ⑬ 教育・保育カリキュラム論』（中央法規出版）</p> <p>『保育所保育指針 解説 平成30年3月』（フレーベル館）</p>				
参 考 書						
担当者からの メッセー						

必修 科目	授 業 科目名	保育内容総論	担 当 教 員	緒方 恵子		
	授業方法	演習	開講期・年次	前期・1年次	単 位	1
<b>授業目標</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解する。</li> <li>2 保育所保育指針の各章の繋がりを読み取り、保育の全体的な構造を理解する。</li> <li>3 子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景沿線等を踏まえ保育の内容の基本的な考え方、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程（計画・実践・記録・考察・評価・改善）に繋げて理解する。</li> <li>4 保育の多様な展開について具体的に理解する。</li> </ol> <b>授業内容の計画（15コマ）</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 保育所保育指針に基づく保育の全体構造</li> <li>2 保育の全体構造と保育内容①養護にかかわる内容</li> <li>3 保育の全体構造と保育内容②教育にかかわる内容</li> <li>4 保育内容の歴史的変遷と社会的背景</li> <li>5 子どもの発達や生活に即した保育内容の基本的な考え方</li> <li>6 養護と教育が一体的に展開される保育</li> <li>7 子どもの主体性を尊重する保育</li> <li>8 環境を通して行う保育</li> <li>9 生活や遊びによる総合的な保育</li> <li>10 個と集団の発達をふまえた保育</li> <li>11 家庭や地域等との連携をふまえた保育</li> <li>12 小学校等との連携・接続をふまえた保育</li> <li>13 長時間の保育</li> <li>14 特別な配慮を要する子どもの保育</li> <li>15 多文化共生の保育</li> </ol>						
成 績 評 価 ( 基 準 )		総合評価と出席日数の両方が次の規定に達した場合に認定する。 ・総合評価は60点以上を合格点とする。 ・所定の時間数の3分の2以上の出席が必要。 ※評価基準 定期試験80%、授業への意欲度20%				
教室外での 学習について		講義で学んだことを糸口にして、専門書やレポート作成により、自らが広く深く専門的学習を行う。				
教 科 書		『新・基本保育シリーズ⑭』 保育内容総論』（中央法規出版） 『保育所保育指針解説 平成30年3月』（フレーベル館）				
参 考 書		『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携認定こども園教育・保育要領（原本）』（チャイルド本社）				
担当者からの メ ッ セ ー ジ		乳幼児期の保育内容の基本原理を理解し、重要な保育者のかかわりについて考察し、主体的に学習すること。				

必修 科目	授業 科目名	保育内容演習 I (健康)	担 当 教 員	中山 やよい		
	授業方法	演習	開講期・年次	前期・1年次	単 位	1
<b>授業目標</b> 社会の夜型化やメディア機器の使用による影響など生活環境の変化に伴う現代的課題を理解し、子どもたちが心身ともに健康に生きていく力を身につけていくために、保育者の果たす役割について認識する。また、子どもたちの心身の発達を考えた保育・教育内容の精選ができる力を身につける。 幼児期に育みたい資質・能力を理解し、幼児期の終わりまでに育ってほしい幼児の姿を常に考えながら、保育・教育活動を展開できる指導力を養う。						
<b>授業内容の計画 (15コマ)</b> 1 オリエンテーション 2 幼児教育の基本① 3 幼児教育の基本② 4 幼児教育の基本③ 5 幼児教育の基本④ 6 子どもの育ちと領域 7 子どもの「健康」をめぐる現状と課題 8 子どもの健康と遊び① 9 子どもの健康と遊び② 10 子どもの健康と遊び③ 11 園生活と生活習慣① 12 園生活と生活習慣② 13 園生活と生活習慣③ 14 子どもの健康と安全教育 15 幼児教育の現代的課題と領域「健康」・まとめ						
成績評価 (基準)		総合評価と出席日数の両方が次の規定に達した場合に認定する。 ・総合評価は60点以上を合格点とする。 ・所定の時間数の3分の2以上の出席が必要。 ※評価基準 定期試験 80%、授業への意欲度 20%				
教室外での 学習について						
教科書		『新訂 事例で学ぶ保育内容<領域>健康』(萌文書林)				
参考書		平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領<原本> 保育所保育指針解説(H30年3月)厚生労働省編(フレーベル館)				
担当者からの メッセージ		「子どもたちの健康な心と体を育て、自らが健康で安全な生活を作り出す力を養う」ために保育士が果たす役割について学び、保育現場で支援するための知識のインプットをしていきましょう				

必修 科目	授 業 科目名	保育内容演習 I (言葉)	担 当 教 員	平林 大佑※		
	授業方法	演習	開講期・年次	後期・1年次	単 位	1
<p><b>実務経験のある教員等による科目</b>          保育の現場経験を基に、ことばの獲得からやりとりの楽しさまで具体的な事例を踏まえ、授業を展開していく</p> <p><b>授業目標</b>          ことばの発達には、コミュニケーション能力や表現力、さらには聞く態度など様々な側面があり、それらは生きる力の基礎として大切にされている。これを保育の場でどのように理解し、育むのか相互的視点から学ぶ。</p> <p><b>授業内容の計画 (15コマ)</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 乳幼児期の教育の現代的課題と領域「言葉」</li> <li>2 乳幼児期の教育の基本</li> <li>3 領域「言葉」と他領域との関係</li> <li>4 乳幼児期の発達とことば (誕生から2歳ごろまで)</li> <li>5 乳幼児期の発達とことば (3歳から6歳ごろまで)</li> <li>6 多様な感情体験とことば</li> <li>7 信頼関係から生みだされることば</li> <li>8 自分の考えや思いを伝えることば</li> <li>9 言葉を育てる環境 (話し言葉・書き言葉)</li> <li>10 ごっこ遊びとことば</li> <li>11 子どもの遊びの場面における保育者の援助</li> <li>12 子どものトラブルの場面における保育者の援助</li> <li>13 ことばを育てる絵本 (絵本の構造、読み方、立ち位置)</li> <li>14 ことばを育てる遊び①</li> <li>15 ことばを育てる遊び②</li> </ol>						
成 績 評 価 ( 基 準 )	総合評価と出席日数の両方が次の規定に達した場合に認定する。 ・総合評価は60点以上を合格点とする。 ・所定の時間数の3分の2以上の出席が必要。 ※評価基準 定期試験80%、授業への意欲度20%					
教室外での 学習について	図書館等で児童文化財(絵本等)を選び、活用の仕方について学習する。					
教 科 書	『新訂 事例で学ぶ保育内容<領域>言葉』(萌文書林)					
参 考 書						
担当者からの メ ッ セ ー ジ	乳幼児が日々の生活の中で、主体的な存在として自ら環境にかかわりながら、ことばを獲得していくその道筋や、環境、活動について学習を深めていきましょう。					

必修 科目	授 業 科目名	保育内容演習 I (表現) [音楽]	担 当 教 員	新井 久 他		
	授業方法	演習	開講期・年次	後期・1年次	単 位	1
<b>授業目標</b> 乳幼児期の表現に関する行為には、表現・身振り・会話・しぐさ等の表現行為から、身体の動きによる表現・音楽的表現・造形的表現・総合的表現などまで、生活経験と心の動きにより、発達に応じて様々なものがある。乳幼児の発達をとらえる一視点として、豊かな感性と創造性に深く関わる保育内容領域「音楽」について学習する。保育者としての感性を磨き表現能力を養いつつ、乳幼児音楽の特性を学ぶ。音楽表現とは何か、表現は保育の中でどのような意味を持つのか、「表現」を育てるとはどのようなことなのかを学び、乳幼児のよりよい環境を構築するための保育者の役割を考えていく。 また、授業では実技演習として、リトミック、楽器の取り扱いと演奏法、合奏の構成と指導法も学ぶ。						
<b>授業内容の計画 (15コマ)</b> 1 保育内容演習 I (表現) [音楽] 概要説明 2 子どもの表現とリトミックの関りについて考える 3 子どもの表現活動と実践指導について考える 4 リトミックと合奏 課題演習 合奏楽器について学ぶ 5 リトミックと合奏 課題演習 合奏楽器について学ぶ 6 リトミックと合奏 課題演習 指導計画作成 7 リトミックと合奏 課題演習 指導計画作成 8 リトミックと合奏 課題演習 指導計画作成 9 リトミックと合奏 課題演習 指導計画作成 10 リトミックと合奏 課題演習 模擬授業 11 リトミックと合奏 課題演習 模擬授業 12 リトミックと合奏 課題演習 模擬授業 13 リトミックと合奏 課題演習 模擬授業 14 合奏発表会リハーサル 15 合奏発表会とまとめ						
成 績 評 価 ( 基 準 )	総合評価と出席日数の両方が次の規定に達した場合に認定する。 ・総合評価は60点以上を合格点とする。 ・所定の時間数の3分の2以上の出席が必要。 ※評価基準 実技試験80%、授業への意欲度20%					
教室外での 学習について	ピアノを弾きながら子ども達に指導が出来るように積極的にピアノ伴奏の練習に取り組みましょう。					
教 科 書	幼稚園教諭・保育士養成課程 子どものための音楽表現技術 感性と実践力豊かな保育者へ(第3版) (萌文書林) 改訂 幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育 (教育芸術社) 新版 和音伴奏による幼児のうた100曲 第2版 (全音楽譜出版社)					
参 考 書	一人一人を大切にする ユニバーサルデザインの音楽表現 第2版 (萌文書林) 年齢別2～5歳児 合奏楽譜百科 (ひかりのくに)					
担当者からの メッセージ	授業に出席を基本とし意欲的に取り組んでいきましょう。グループでの発表では役割を意識して下さい。					



必修 科目	授 業 科目名	保育内容演習 I (表現) 〔図画工作〕	担 当 教 員	石橋 敦子		
	授業方法	演習	開講期・年次	後期・1年次	単 位	1
<b>授業目標</b> 保育現場で使用される教材に親しみながら表現する楽しさを体感し、制作を通して表現活動の立案から進め方、指導や援助の方法について学ぶ。						
<b>授業内容の計画 (15コマ)</b> 1 ガイダンス 2 作ったもので遊ぶ 3 作ったものを飾る 4 幼児画の発達と造形表現について 5 描画材を使った表現 (1) 6 描画材を使った表現 (2) 7 身近な素材を使った表現 (1) 8 身近な素材を使った表現 (2) 9 身近な素材を使った表現 (3) 10 身近な素材を使った表現 (4) 11 造形あそび (1) 12 造形あそび (2) 13 共同制作 (1) 14 共同制作 (2) 15 ふりかえりと活動のねらいについて考える						
成 績 評 価 ( 基 準 )	総合評価と出席日数の両方が次の規定に達した場合に認定する。 ・総合評価は60点以上を合格点とする。 ・所定の時間数の3分の2以上の出席が必要。 ※評価基準 定期試験 80%、授業への意欲度 20%					
教室外での 学習について						
教 科 書	適宜、資料を配布する					
参 考 書	『造形表現・図画工作』 (建帛社) 『〈感じること〉からはじまる子どもの造形表現』 (教育情報出版)					
担当者からの メッセージ						

必修 科目	授 業 科目名	保育内容演習 I (表現) 〔体育〕	担 当 教 員	中山 やよい		
	授業方法	演習	開講期・年次	後期・1年次	単 位	1
<b>授業目標</b> 保育内容表現では、「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」ことを目指している。 子どもたちは、五感で感じ、ことばや絵や制作や音や身体を使って、自分なりに表現しようとしている。 この授業では、子どもたちが自らの身体をとおして、積極的に表現したいと思い、全身で自由に表現することを楽しむ様な支援ができるための実践力を養う。						
<b>授業内容の計画 (15コマ)</b> 1 オリエンテーション・身体表現とは 2 軽快なリズムにのっているいろいろな身体の動かし方を楽しむ 3 身近なものを使った表現あそび① 4 身近なものを使った表現あそび② 5 身近なものを使った表現あそび③ 6 手遊び・伝承あそびから全身を使った表現あそび制作からあそびへ 7 バルーンを使った表現あそび 8 リズム体操・リズムダンス 9 リズム体操創作・リズムダンス① 10 リズム体操創作・リズムダンス② 発表 11 マスゲーム創作① (グループ分け・計画) 12 マスゲーム創作② (練習①) 13 マスゲーム創作③ (練習②) 14 マスゲーム創作④ (発表・鑑賞・振り返り) 15 ストーリーを表現しよう						
成 績 評 価 ( 基 準 )	総合評価と出席日数の両方が次の規定に達した場合に認定する。 ・総合評価は60点以上を合格点とする。 ・所定の時間数の3分の2以上の出席が必要。 ※評価基準 定期試験80%、授業への意欲度20%					
教室外での 学習について	授業内で書き留めたメモをノートにまとめ、ご自身のオリジナルノートを作成してください。作成したノートには気づきや、アイデアなどどんどん書き足していき、ご自身の宝物ノートになるよう取り組んでいってください。					
教 科 書	適宜、資料を配布する					
参 考 書	運動あそび・表現あそび<指導方法を身につける理論と実例> (大学図書出版) 保育の表現技術 実践ワーク (保育出版社)					
担当者からの メ ッ セ ー ジ	怪我などの防止のため、必ずトレーニングウェアを着用し、体育館シューズは紐靴でしっかりフィットするものを履くなど、運動にふさわしい格好で授業に取り組むこと。 怪我のないよう体調管理をしっかり行い、授業に取り組めるよう努めていきましょう。					

必修 科目	授 業 科目名	音楽 I	担 当 教 員	新井 久		
	授業方法	演習	開講期・年次	前期・1年次	単 位	1
<p><b>授業目標</b></p> <p>楽譜の解釈に必要な音の長短・高低・強弱・拍子・速度記号や専門用語など、基本的な音楽の知識と読譜力を養う。</p> <p><b>授業内容の計画（15コマ）</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 音楽 I 概要説明</li> <li>2 音楽理論 音楽と音</li> <li>3 音楽理論 楽譜のしくみ</li> <li>4 音楽理論 音名</li> <li>5 音楽理論 小節</li> <li>6 音楽理論 楽曲の形式</li> <li>7 音楽理論 音符と休符</li> <li>8 音楽理論 拍子とリズム</li> <li>9 音楽理論 音程</li> <li>10 音楽理論 音程</li> <li>11 音楽理論 音階と調</li> <li>12 音楽理論 和音とコードネーム</li> <li>13 音楽理論 移調・移旋・転調</li> <li>14 音楽理論 音楽に表情をつける演奏記号</li> <li>15 まとめ</li> </ol>						
成 績 評 価 ( 基 準 )		<p>総合評価と出席日数の両方が次の規定に達した場合に認定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合評価は60点以上を合格点とする。</li> <li>・所定の時間数の3分の2以上の出席が必要。</li> </ul> <p>※評価基準 定期試験 80% (授業内の実技含む)、授業への意欲度 20%</p>				
教室外での 学習について		<p>積極的に時間を作ってピアノの練習をして下さい。ピアノは自主練習が何より大切です。音楽理論と実技を関連づけて練習しましょう。</p>				
教 科 書		<p>改訂 幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育 (教育芸術社)</p> <p>新版 和音伴奏による幼児のうた 100 曲 第2版 (全音楽譜出版社)</p> <p>幼稚園教諭・保育士養成課程 子どものための音楽表現技術 感性と実践力豊かな保育者へ〈第3版〉 (萌文書林)</p>				
参 考 書						
担当者からの メッセージ		<p>音楽理論の問題等でわからない時は積極的に聞きに来てください。</p>				

必修 科目	授 業 科目名	音楽Ⅱ	担 当 教 員	新井 久		
	授業方法	演習	開講期・年次	前期・1年次	単 位	1
<b>授業目標</b> 保育の遂行に必要な鍵盤楽器の基礎を習得することを目的とする科目である。また、実践的な童謡を中心に進めていく中で、自然な発声と感情豊かに表現する歌唱力を養い、保育現場で役立つ実践技能として「弾き歌い」を個人レッスンの中で学習する。ピアノは授業以外の練習が何よりも大切である。						
<b>授業内容の計画（15コマ）</b> 1 音楽Ⅱ概要説明 2 ピアノ実技レッスン 各学生の段階に合わせた基礎技術練習と弾き歌い練習 3 ピアノ実技レッスン 各学生の段階に合わせた基礎技術練習と弾き歌い練習 4 ピアノ実技レッスン 各学生の段階に合わせた基礎技術練習と弾き歌い練習 5 ピアノ実技レッスン 各学生の段階に合わせた基礎技術練習と弾き歌い練習 6 ピアノ実技レッスン 各学生の段階に合わせた基礎技術練習と弾き歌い練習 7 ピアノ実技レッスン 各学生の段階に合わせた基礎技術練習と弾き歌い練習 8 ピアノ実技レッスン 各学生の段階に合わせた基礎技術練習と弾き歌い練習 9 ピアノ実技レッスン 実技定期試験課題曲選曲 10 ピアノ実技レッスン 実技定期試験課題曲練習 11 ピアノ実技レッスン 実技定期試験課題曲練習 12 ピアノ実技レッスン 実技定期試験課題曲練習 13 ピアノ実技レッスン 実技定期試験課題曲練習 14 前期実技定期試験リハーサル 15 前期実技定期試験						
成 績 評 価 ( 基 準 )		総合評価と出席日数の両方が次の規定に達した場合に認定する。 ・総合評価は60点以上を合格点とする。 ・所定の時間数の3分の2以上の出席が必要。 ※評価基準 定期試験80%、授業への意欲度20%				
教室外での 学習について		積極的に時間を作ってピアノの練習をして下さい。 ピアノは自主練習が何より大切です。				
教 科 書		指づかいつきバイエル・ピアノ教本 木村ケイ編（全音楽譜出版社） 改訂 幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育（教育芸術社） 新版 和音伴奏による幼児のうた100曲 第2版（全音楽譜出版社） 幼稚園教諭・保育士養成課程 子どものための音楽表現技術 感性と実践力豊かな保育者へ〈第3版〉（萌文書林）				
参 考 書						
担当者からの メ ッ セ ー ジ		弾き方などわからない時は、積極的に聞きに来てください。				

必修 科目	授業 科目名	図画工作 I	担 当 教 員	安田 賀津子		
	授業方法	演習	開講期・年次	前期・1年次	単 位	1
<b>授業目標</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幼児の表現の姿や、その発達を理解する。</li> <li>2. 様々な素材や材料、道具に触れその特性を理解し、幼児期における多様な表現活動に生かすことのできる基礎的な知識や技能を習得する。</li> <li>3. 授業で行った活動について振り返り、記録としてまとめる。</li> </ol>						
<b>授業内容の計画（15コマ）</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス 授業目標・授業内容・評価について 記録の必要性和記入方法</li> <li>2 色を探検しよう 色の基礎知識、色の組み合わせ、3原色を使って色の作る</li> <li>3 絵の具を使って遊ぼう 絵の具の特徴、絵の具の使い方、技法を使って遊ぶ</li> <li>4 パスを使って遊ぼう クレヨンとパスの特徴、技法を使って遊ぶ</li> <li>5 絵を描いて遊ぼう 描画材料と紙の種類、材料や色の組み合わせ</li> <li>6 紙を使って遊ぼう I 紙の特徴、紙を使って遊ぶ、ねらい・環境構成・導入</li> <li>7 紙を使って遊ぼう II はさみの安全な使い方と援助方法、乳児と幼児のハサミを使っての遊び</li> <li>8 粘土を使って遊ぼう 粘土の特徴と性質、立体造形における子どもの発達、粘土を使っての遊び</li> <li>9 こどもの造形表現の発達を知ろう 子どもの絵の特徴、子どもの描画活動の発達過程、子どもの絵の見方</li> <li>10 生活素材を使って遊ぼう 身近な素材の特徴、素材を使っての遊び、ねらい・環境構成・導入</li> <li>11 共同制作活動 共同制作の意義、共同制作の進め方</li> <li>12 共同制作活動 指導における計画と事前準備の重要性</li> <li>13 共同制作活動 作品の発表・展示の工夫</li> <li>14 共同制作活動 「協同すること」での気付き</li> <li>15 振り返り</li> </ol>						
成 績 評 価 ( 基 準 )	総合評価と出席日数の両方が次の規定に達した場合に認定する。 ・総合評価は60点以上を合格点とする。 ・所定の時間数の3分の2以上の出席が必要。 ※評価基準 定期試験80%、授業への意欲度20%					
教室外での 学習について						
教 科 書	必要に応じて適宜資料を配布する					
参 考 書	育所保育指針解説（厚生労働省） 子どもの造形表現—ワークシートで学ぶ（開成出版） 0・1・2歳児の造形あそび実践ライブ（ひかりのくに株式会社） 2・3・4・5歳児の技法あそび実践ライブ（ひかりのくに株式会社） 子どもの世界 子どもの造形（三元社）					
担当者からの メ ッ セ ー ジ	作品の出来上がりだけでなく、プロセスを大切にします。失敗を恐れずに表現することにチャレンジしてください。					

必修 科目	授業 科目名	体育 I	担 当 教 員	中山 やよい		
	授業方法	演習	開講期・年次	前期・1年次	単 位	1
<p><b>授業目標</b></p> <p>乳幼児期の発達と運動との関わりについて理解し、保育理論に基づいた実践ができるようになることを目標とする。さらに様々な遊びの体験をとおして、運動あそびを指導する上で子どもの『何が育つのか』という視点から、教材研究ができるようになることを目指す。</p> <p><b>授業内容の計画（15コマ）</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 子どもの発達と運動遊び（乳・幼児期それぞれの運動発達と遊び）</li> <li>3 幼児期の運動遊びで育つもの</li> <li>4 運動のとらえ方と指導の基本</li> <li>5 大型遊具（移動遊具）を使ったあそび①マット</li> <li>6 大型遊具（移動遊具）を使ったあそび②マット</li> <li>7 固定遊具の安全点検とあそび・散歩計画案作成</li> <li>8 散歩の実践と振り返り</li> <li>9 大型遊具（移動遊具）を使ったあそび③跳び箱</li> <li>10 大型遊具（移動遊具）を使ったあそび④鉄棒あそび</li> <li>11 大型遊具（移動遊具）を使ったあそび⑤平均台あそび</li> <li>12 サーキットあそびの計画と実践①……グループ別にサーキットあそびを考案する。</li> <li>13 サーキットあそびの計画と実践②……グループ別にサーキットあそびの実践・振り返り</li> <li>14 サーキットあそびの計画と実践③……サーキット遊びの発表と評価</li> <li>15 サーキットあそびの計画と実践④……サーキット遊びの発表と評価</li> </ol>						
成績評価 (基準)	<p>総合評価と出席日数の両方が次の規定に達した場合に認定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合評価は60点以上を合格点とする。</li> <li>・所定の時間数の3分の2以上の出席が必要。</li> </ul> <p>※評価基準 定期試験80%、授業への意欲度20%</p>					
教室外での 学習について	<p>授業内で書き留めたメモをノートにまとめ、ご自身のオリジナルノートを作成してください。作成したノートには気づきや、アイデアなどどんどん書き足していき、ご自身の宝物ノートになるよう取り組んでいってください。</p>					
教科書	<p>必要に応じて適宜配布します</p>					
参考書	<p>すこやかな子どもの心と体を育む「改訂 運動遊び」(建帛社) 運動あそび・表現あそび&lt;指導方法を身につける理論と実例&gt; (大学図書出版)</p>					
担当者からの メッセージ	<p>怪我などの防止のため、必ずトレーニングウェアを着用し、体育館シューズは靴紐でしっかりフィットするものを履くなど、運動にふさわしい格好で授業に取り組むこと。怪我のないよう体調管理をしっかり行い、授業に取り組めるよう努めていきましょう。</p>					

必修 科目	授 業 科目名	乳児保育 I	担 当 教 員	白川 晴美		
	授業方法	講義	開講期・年次	前期・1年次	単 位	2
<b>授業目標</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 3歳未満児の保育を行うについて、乳児保育の概念と意義を把握し乳児保育の歴史と現状について理解を深める。</li> <li>2 保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題を学ぶ。</li> <li>3 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。</li> <li>4 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。 3歳未満児の成長発達の特徴と保育課題を把握するとともに、乳児保育担当者としての心がまえ、子ども像、保育観を確立するために乳児保育の知識、技術の基礎を学ぶ。</li> </ol>						
<b>授業内容の計画（15コマ）</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション（授業概要）</li> <li>2 乳児保育の意義・目的と歴史的変遷</li> <li>3 乳児保育および子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題</li> <li>4 保育所における乳児保育 保育所以外の児童福祉施設（乳児院等）における乳児保育</li> <li>5 家庭的保育・小規模保育等における乳児保育</li> <li>6 3歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場</li> <li>7 3歳未満児の生活と環境</li> <li>8 3歳未満児の遊びと環境</li> <li>9 3歳以上児の保育に移行する時期の保育</li> <li>10 3歳未満児の発育・発達をふまえた保育者によるかかわり</li> <li>11 3歳未満児の発育・発達をふまえた保育における配慮</li> <li>12 乳児保育の計画・記録・評価とその意義</li> <li>13 職員間の連携</li> <li>14 保護者との連携・協働</li> <li>15 自治体や地域の関係機関等の連携・協働</li> </ol>						
成 績 評 価 ( 基 準 )		総合評価と出席日数の両方が次の規定に達した場合に認定する。 ・総合評価は60点以上を合格点とする。 ・所定の時間数の3分の2以上の出席が必要。 ※評価基準 定期試験80%、授業への意欲度20%				
教室外での 学習について						
教 科 書		『新・基本保育シリーズ⑮ 乳児保育 I・II』（中央法規出版）				
参 考 書		『保育所保育指針 解説 平成30年3月』（フレーベル館）				
担当者からの メッセー ジ						

必修 科目	授 業 科目名	保育所実習 I	担 当 教 員	小保方 敬子／平林 大佑 他		
	授業方法	実習	開講期・年次	後期・1年次	単 位	2
<b>授業目標</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。</li> <li>2 観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。</li> <li>3 既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する。</li> <li>4 保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。</li> <li>5 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。</li> </ol> <b>授業内容の計画（80時間）</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 保育所の役割と機能 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 保育所における子どもの生活と保育士の援助や関わり</li> <li>(2) 保育所保育指針に基づく保育の展開</li> </ol> </li> <li>2 子どもの理解 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 子どもの観察とその記録による理解</li> <li>(2) 子どもの発達過程の理解</li> <li>(3) 子どもへの援助や関わり</li> </ol> </li> <li>3 保育内容・保育環境 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 保育の計画に基づく保育内容</li> <li>(2) 子どもの発達過程に応じた保育内容</li> <li>(3) 子どもの生活や遊びと保育環境</li> <li>(4) 子どもの健康と安全</li> </ol> </li> <li>4 保育の計画・観察・記録 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 全体的な計画と指導計画及び評価の理解</li> <li>(2) 記録に基づく省察・自己評価</li> </ol> </li> <li>5 専門職としての保育士の役割と職業倫理 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 保育士の業務内容</li> <li>(2) 職員間の役割分担や連携・協働</li> <li>(3) 保育士の役割と職業倫理</li> </ol> </li> </ol>						
成 績 評 価 ( 基 準 )	総合評価と実習時間及び日数の両方が次の規定に達した場合に認定する。 ・評価基準 実習施設と担当教員の総合評価は60点以上を合格とする。 ・実習時間及び日数は80時間かつ10日間以上が必要。					
教室外での 学習について	実習先に訪問してオリエンテーションを受ける。 実習先の観察実習					
教 科 書	『新・基本保育シリーズ⑳ 保育実習』（中央法規出版） 『保育所保育指針解説 平成30年3月』（フレーベル館）					
参 考 書						
担当者からの メ ッ セ ー ジ	目的意識を持ち、学びの姿勢を大切にして実習を受けましょう。					



必修 科目	授業 科目名	保育実習指導 I	担 当 教 員	平林 大佑※																																						
	授業方法	演習	開講期・年次	通年・1年次	単 位	2																																				
<b>実務経験のある教員等による科目</b> 保育現場の経験を基に、子どもの生活や遊びの習得を様々な視点から授業を展開していく <b>授業目標</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 保育実習の意義・目的を理解する。</li> <li>2 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。</li> <li>3 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。</li> <li>4 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。</li> <li>5 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けて課題や目標を明確にする</li> </ol> <b>授業内容の計画 (25 コマ)</b> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">1 オリエンテーション</td> <td style="width: 50%;">16 施設養護の目的と意義</td> </tr> <tr> <td>(授業概要の説明・受講にあたっての留意点)</td> <td>17 各施設の概要</td> </tr> <tr> <td>2 保育実習の目的・実習の概要</td> <td>18 施設における子どもの理解</td> </tr> <tr> <td>3 保育所の役割と機能</td> <td>19 施設における子どもの生活と環境</td> </tr> <tr> <td>4 子どもの発達と遊び 3歳児未満</td> <td>20 施設における保育士の役割</td> </tr> <tr> <td>5 子どもの発達と遊び 3歳児以上</td> <td>21 実習を想定した子どもへの援助・方法①</td> </tr> <tr> <td>6 子どもの観察とその理解</td> <td>22 実習を想定した子どもへの援助・方法②</td> </tr> <tr> <td>子どもへの援助とかかわり</td> <td>23 保育所実習 事前指導</td> </tr> <tr> <td>7 保育士の職務内容とその理解</td> <td>実習生としての心構え お礼状の書き方</td> </tr> <tr> <td>8 保育環境と安全</td> <td>24 事後指導における実習の総括と自己評価</td> </tr> <tr> <td>9 子どもの最善の利益の考慮</td> <td>25 事後指導における課題の明確化</td> </tr> <tr> <td>プライバシーの保護と守秘義務</td> <td>26 施設実習課題・目標の立て方</td> </tr> <tr> <td>10 絵本について学習と演習</td> <td>27 施設実習 ノートの書き方</td> </tr> <tr> <td>11 手遊びについて学習と演習</td> <td>28 施設実習 事前指導</td> </tr> <tr> <td>12 保育所実習 ノートの書き方①</td> <td>29 事後指導における実習の総括と自己評価</td> </tr> <tr> <td>13 保育所実習 ノートの書き方②</td> <td>30 事後指導における課題の明確化</td> </tr> <tr> <td>14 実習の計画と指導計画及び評価の理解</td> <td>(26～30は2年次前期)</td> </tr> <tr> <td>15 指導計画(指導案)の作成</td> <td></td> </tr> </table>							1 オリエンテーション	16 施設養護の目的と意義	(授業概要の説明・受講にあたっての留意点)	17 各施設の概要	2 保育実習の目的・実習の概要	18 施設における子どもの理解	3 保育所の役割と機能	19 施設における子どもの生活と環境	4 子どもの発達と遊び 3歳児未満	20 施設における保育士の役割	5 子どもの発達と遊び 3歳児以上	21 実習を想定した子どもへの援助・方法①	6 子どもの観察とその理解	22 実習を想定した子どもへの援助・方法②	子どもへの援助とかかわり	23 保育所実習 事前指導	7 保育士の職務内容とその理解	実習生としての心構え お礼状の書き方	8 保育環境と安全	24 事後指導における実習の総括と自己評価	9 子どもの最善の利益の考慮	25 事後指導における課題の明確化	プライバシーの保護と守秘義務	26 施設実習課題・目標の立て方	10 絵本について学習と演習	27 施設実習 ノートの書き方	11 手遊びについて学習と演習	28 施設実習 事前指導	12 保育所実習 ノートの書き方①	29 事後指導における実習の総括と自己評価	13 保育所実習 ノートの書き方②	30 事後指導における課題の明確化	14 実習の計画と指導計画及び評価の理解	(26～30は2年次前期)	15 指導計画(指導案)の作成	
1 オリエンテーション	16 施設養護の目的と意義																																									
(授業概要の説明・受講にあたっての留意点)	17 各施設の概要																																									
2 保育実習の目的・実習の概要	18 施設における子どもの理解																																									
3 保育所の役割と機能	19 施設における子どもの生活と環境																																									
4 子どもの発達と遊び 3歳児未満	20 施設における保育士の役割																																									
5 子どもの発達と遊び 3歳児以上	21 実習を想定した子どもへの援助・方法①																																									
6 子どもの観察とその理解	22 実習を想定した子どもへの援助・方法②																																									
子どもへの援助とかかわり	23 保育所実習 事前指導																																									
7 保育士の職務内容とその理解	実習生としての心構え お礼状の書き方																																									
8 保育環境と安全	24 事後指導における実習の総括と自己評価																																									
9 子どもの最善の利益の考慮	25 事後指導における課題の明確化																																									
プライバシーの保護と守秘義務	26 施設実習課題・目標の立て方																																									
10 絵本について学習と演習	27 施設実習 ノートの書き方																																									
11 手遊びについて学習と演習	28 施設実習 事前指導																																									
12 保育所実習 ノートの書き方①	29 事後指導における実習の総括と自己評価																																									
13 保育所実習 ノートの書き方②	30 事後指導における課題の明確化																																									
14 実習の計画と指導計画及び評価の理解	(26～30は2年次前期)																																									
15 指導計画(指導案)の作成																																										
成績評価 (基準)	総合評価と出席日数の両方が次の規定に達した場合に認定する。 ・総合評価は60点以上を合格点とする。 ・所定の時間数の3分の2以上の出席が必要。 ※評価基準 定期試験80%、授業への意欲度20%																																									
教室外での 学習について	実習先に訪問してオリエンテーションを受ける。																																									
教科書	『新・基本保育シリーズ⑳ 保育実習』(中央法規出版) 『保育所保育指針解説 平成30年3月』(フレーベル館)																																									
担当者からの メッセージ	保育実習の意義と目的を理解し、明確化することを目的としています。 実習が有意義なものになるように、専門的な知識や技術を身につけましょう。																																									

必修 科目	授 業 科目名	保育実践演習 I	担 当 教 員	新井 久 他		
	授業方法	演習	開講期・年次	後期・1年次	単 位	1
<b>授業目標</b> 前期に引き続き、ピアノの個人レッスンでは保育技能「弾き歌い」を学ぶ。また、子どもたちの生活に必要な事柄や行事に視点を当てながら、指導に必要な知識や技能について実践を通して学ぶ。						
<b>授業内容の計画（15コマ）</b> 1 保育実践演習 I 概要説明 2 ピアノ実技レッスン 実習時に必要な弾き歌い曲選曲 3 ピアノ実技レッスン 実習時に必要な弾き歌い曲練習 4 ピアノ実技レッスン 実習時に必要な弾き歌い曲練習 5 ピアノ実技レッスン 実習時に必要な弾き歌い曲練習 6 ピアノ実技レッスン 実習時に必要な弾き歌い曲練習 7 ピアノ実技レッスン 実習時に必要な弾き歌い曲練習 8 ピアノ実技レッスン 実習時に必要な弾き歌い曲練習 9 ピアノ実技レッスン 実習時に必要な弾き歌い曲と実技定期試験曲選曲 10 ピアノ実技レッスン 実習時に必要な弾き歌い曲と実技定期試験曲練習 11 ピアノ実技レッスン 実習時に必要な弾き歌い曲と実技定期試験曲練習 12 ピアノ実技レッスン 実習時に必要な弾き歌い曲と実技定期試験曲練習 13 ピアノ実技レッスン 実習時に必要な弾き歌い曲と実技定期試験曲練習 14 後期実技定期試験リハーサル 15 後期実技定期試験						
成 績 評 価 ( 基 準 )		総合評価と出席日数の両方が次の規定に達した場合に認定する。 ・総合評価は60点以上を合格点とする。 ・所定の時間数の3分の2以上の出席が必要。 ※評価基準 定期試験80%、授業への意欲度20%				
教室外での 学習について		積極的に時間を作ってピアノの練習をして下さい。 ピアノは自主練習が何より大切です。				
教 科 書		幼稚園教諭・保育士養成課程 子どものための音楽表現技術 感性と実践力豊かな保育者へ〈第3版〉(萌文書林) 改訂 幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育(教育芸術社) 新版 和音伴奏による幼児のうた100曲 第2版(全音楽譜出版社)				
参 考 書						
担当者からの メッセー ジ		弾き方などわからない時は、積極的に聞きに来て下さい。				

必修 科目	授 業 科目名	障害者福祉	担 当 教 員	黒田 将史		
	授業方法	講義	開講期・年次	後期・1年次	単 位	1
<p><b>授業目標</b></p> <p>本講では、まず障害者福祉の理念や歴史、障害者を取り巻く実状について概観する。その上で、相談援助において必須の知識となる障害者福祉の中心的な法制度の内容・仕組みを学習し、障害者に対する支援の在り方や関わり方について理解を深めることを目標とする。</p> <p><b>授業内容の計画（8コマ）</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 障害者福祉とは</li> <li>2 障害者の生活実態・障害者福祉の歴史</li> <li>3 障害者福祉の理念</li> <li>4 障害者福祉の法制度体系</li> <li>5 障害者総合支援法</li> <li>6 組織・機関の役割</li> <li>7 専門職の役割・多職種連携</li> <li>8 まとめ</li> </ol>						
成 績 評 価 ( 基 準 )		<p>総合評価と出席日数の両方が次の規定に達した場合に認定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合評価は60点以上を合格点とする。</li> <li>・所定の時間数の3分の2以上の出席が必要。</li> </ul> <p>※評価基準 定期試験 80%、授業への意欲度 20%</p>				
教室外での 学習について		<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義中配付したレジュメ、資料を見返すこと</li> <li>・日々の生活の中で障害者福祉について意識すること</li> </ul>				
教 科 書		『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座8 障害者福祉』(中央法規出版)				
参 考 書		講義時に適宜紹介する。				
担当者からの メ ッ セ ー ジ		障がい者と聞くと少しネガティブなイメージを思い浮かべるかもしれませんが、全ては“知る”ことから始まります。学習を通して障がい者への理解を深めていきましょう。				

必修 科目	授 業 科目名	地域福祉と包括的支援体制	担 当 教 員	村江 昇		
	授業方法	講義	開講期・年次	後期・1年次	単 位	1
<p><b>授業目標</b></p> <p>地域福祉で暮らす住民の多様化も認識され、さまざまな年代や性別、国籍、宗教や文化に属する人々が互いに認め合い尊重しあいながらともに暮らしていく（共生社会）ことが求められている。しかし現実の社会では、つながりの希薄化、地域組織の弱体化等が問題となっている。本講では、地域社会で発生する問題に向き合うため、包括的支援体制と地域福祉の考え方を学ぶとともに福祉行財政と福祉計画についても理解を深める。</p> <p><b>授業内容の計画（8コマ）</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 地域社会の変化と多様化・複雑化した地域生活課題</li> <li>2 地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制</li> <li>3 地域福祉ガバナンスと他機関協働</li> <li>4 地域福祉の基本的考え方</li> <li>5 地域を基盤としたソーシャルワークの展開</li> <li>6 災害時における総合的かつ包括的な支援体制</li> <li>7 福祉計画の定義と種類、策定と運用</li> <li>8 福祉行財政システム</li> </ol>						
成 績 評 価 ( 基 準 )		<p>総合評価と出席日数の両方が次の規定に達した場合に認定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合評価は60点以上を合格点とする。</li> <li>・所定の時間数の3分の2以上の出席が必要。</li> </ul> <p>※評価基準 定期試験 80%、授業への意欲度 20%</p>				
教室外での 学習について						
教 科 書		『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 6 地域福祉と包括的支援体制』(中央法規出版)				
参 考 書						
担当者からの メ ッ セ ー ジ		地域での支援はこれからの福祉実践の根幹になります。				

選 択 科 目	授 業 科目名	貧困に対する支援	担 当 教 員	古谷 泰啓		
	授業方法	講義	開講期・年次	後期・1年次	単 位	1
<p><b>授業目標</b></p> <p>生活困窮者の最後のセーフティネットとなる生活保護制度を徹底的に学ぶ。また、最近の動向と併せ関係諸機関の役割を学ぶ。</p> <p><b>授業内容の計画（8コマ）</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 公的扶助の概念・貧困問題について</li> <li>2 公的扶助制度の歴史</li> <li>3 生活保護制度について（1）</li> <li>4 生活保護制度について（2）</li> <li>5 生活保護の概要・低所得対策の概要</li> <li>6 生活保護の運営実施体制と関係機関・団体</li> <li>7 生活保護における自立支援など</li> <li>8 総復習</li> </ol>						
成 績 評 価 ( 基 準 )		<p>総合評価と出席日数の両方が次の規定に達した場合に認定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合評価は60点以上を合格点とする。</li> <li>・所定の時間数の3分の2以上の出席が必要。</li> </ul> <p>※評価基準 定期試験80%、授業への意欲度20%</p>				
教室外での 学習について						
教 科 書		『最新 社会福祉士養成講座4 貧困に対する支援』（中央法規出版）				
参 考 書						
担当者からの メッセー ジ						

選 択 科 目	授 業 科目名	権利擁護を支える法制度	担 当 教 員	林 直子		
	授業方法	講義	開講期・年次	後期・1年次	単 位	1
<p><b>授業目標</b></p> <p>「権利擁護を支える法制度」の科目では、社会福祉関連の諸制度が、どのような仕組みによって人々の権利を支える制度になっているのか、その法の枠組みとそれに携わる人々の関係や役割について習得します。具体的には下記の項目を学習します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 法学の基礎（日本国憲法・民法の基礎、裁判の基礎を含む）</li> <li>2 権利擁護の意義、権利擁護で直面する法的諸問題</li> <li>3 権利擁護に関わる組織・団体・専門職</li> <li>4 成年後見制度に関する基礎知識</li> </ol> <p><b>授業内容の計画（8コマ）</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス、法学の基礎（1）日本国憲法の基礎</li> <li>2 法学の基礎（2）民法の基礎、裁判の基礎</li> <li>3 権利擁護の意義・支える仕組み</li> <li>4 意思決定支援について、インフォームド・コンセント</li> <li>5 権利擁護にかかわる組織・団体・専門職</li> <li>6 成年後見制度（1）</li> <li>7 成年後見制度（2）</li> <li>8 成年後見制度をめぐる近年の動向、講義全体の総括</li> </ol>						
成 績 評 価 ( 基 準 )		<p>総合評価と出席日数の両方が次の規定に達した場合に認定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合評価は60点以上を合格点とする。</li> <li>・所定の時間数の3分の2以上の出席が必要。</li> </ul> <p>※評価基準 定期試験 80%、授業への意欲度 20%</p>				
教 室 外 での 学 習 について		予習・復習として、テキストをしっかりと読むこと。				
教 科 書		『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 9 権利擁護を支える法制度』（中央法規出版）				
参 考 書		初回講義の時に紹介する。				
担当者からの メ ッ セ ー ジ		学習する内容が多いだけでなく難しく大変な科目ですが、苦手意識を持たずに最後まで学習を続けましょう。				

選 択 科 目	授 業 科 目 名	保 健 医 療 と 福 祉	担 当 教 員	榎 原 直 美		
	授 業 方 法	講 義	開 講 期 ・ 年 次	後 期 ・ 1 年 次	単 位	1
<p><b>授業目標</b></p> <p>医療ソーシャルワーカー業務指針を中心に、医療ソーシャルワーカーの業務を理解する。また、医療保険制度、診療報酬制度を理解し、医療制度改革の流れをつかむ。</p> <p><b>授業内容の計画（8コマ）</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 医療機関の役割と、医療ソーシャルワーカー（社会福祉士）の必要性</li> <li>2 医療保険制度</li> <li>3 医療法</li> <li>4 診療報酬制度</li> <li>5 医療ソーシャルワーカーの歴史</li> <li>6 医療ソーシャルワーカーの役割</li> <li>7 保健医療の現場での多職種と連携</li> <li>8 まとめ</li> </ol>						
成 績 評 価 ( 基 準 )		<p>総合評価と出席日数の両方が次の規定に達した場合に認定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合評価は60点以上を合格点とする。</li> <li>・所定の時間数の3分の2以上の出席が必要。</li> </ul> <p>※評価基準 定期試験 80%、授業への意欲度 20%</p>				
教 室 外 で の 学 習 に つ い て		事例集などに目を通しておくと、より授業の理解が進むと思います。				
教 科 書		『最新 社会福祉士養成講座5 保健医療と福祉』（中央法規出版）				
参 考 書		<p>『保健医療ソーシャルワーク論』（勁草書房）</p> <p>『改訂 保健医療ソーシャルワーク実践1～3』（中央法規）</p> <p>『実践的医療ソーシャルワーク論 改訂第2版』（金原出版）</p> <p>『医療ソーシャルワーク実践50例—典型的実践事例で学ぶ医療福祉 改訂』（川島書店）</p>				
担 当 者 か ら の メ ッ セ ー ジ		医療機関における社会福祉士の専門性とは何かを一緒に考えましょう。				

選 択 科 目	授 業	ソーシャルワークの基盤と専門職・	担 当	小保方 敬子		
	科目名	ソーシャルワークの基盤と専門職 (専門)	教 員			
	授業方法	講義	開講期・年次	後期・1年次	単 位	1
<b>授業目標</b> 社会福祉の専門職として、今後益々活躍が期待されているソーシャルワーカーの使命や役割を理解する。又、ソーシャルワークの定義や形成過程を学ぶ。 特に、ソーシャルワークの原理・理念について理解した後、総合的・包括的な支援を行うため、多職種連携の必要性を学ぶことを目指す。 さらに、ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲についても知り、専門職倫理を踏まえ、ソーシャルワーク支援の実際について理解を深める。						
<b>授業内容の計画 (8コマ)</b> 1 社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけ 2 ソーシャルワークの概念 3 ソーシャルワークの基盤となる考え方 4 ソーシャルワークの形成過程 5 ソーシャルワークの倫理 6 ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲 7 ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク 8 総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容						
成 績 評 価 ( 基 準 )	総合評価と出席日数の両方が次の規定に達した場合に認定する。 ・総合評価は60点以上を合格点とする。 ・所定の時間数の3分の2以上の出席が必要。 ※評価基準 定期試験 80%、授業への意欲度 20%					
教室外での 学習について						
教 科 書	『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 第11巻 ソーシャルワークの基盤と専門職[共通・社会専門]』 (中央法規出版)					
参 考 書	『新・社会福祉士養成講座 第6巻 相談援助の基盤と専門職 第3版』 (中央法規出版)					
担当者からの メ ッ セ ー ジ	授業を通じ、自己の「ソーシャルワーク保育士像」を見つけて下さい。					



選 択 科 目	授 業	ソーシャルワークの理論と方法	担 当 教 員	煤原 直美		
	科目名	ソーシャルワークの理論と方法(専門)		開講期・年次	前期・1年次	単 位
	授業方法	講義				
<b>授業目標</b> ソーシャルワークとはどのように行われるのか、どうすれば生活課題をもつクライアントを支援できるのか、その技術・方法・理論を学びます。理論だけでなく事例などを通して、ソーシャルワーク演習や実習指導、実習、そして現場でのソーシャルワークと連動できるよう、具体的に学べる授業にしていきます。						
<b>授業内容の計画 (8コマ)</b> 1 ソーシャルワークの構造と機能・・・ソーシャルワークは、どのようにおこなわれるのか学びます 2 人と環境の相互作用・・・ソーシャルワークの焦点について学びます 3 ソーシャルワークの展開過程・・・ソーシャルワークの具体的な流れを学びます 4 ケースマネジメント・・・ケースマネジメントについて学びます 5 グループを活用した相談援助・・・グループワークについて学びます 6 さまざまな実践モデルとアプローチⅠ・・・実践モデルとは何かを理解します 7 さまざまな実践モデルとアプローチⅡ・・・実践モデルとは何かを理解します 8 まとめ						
成 績 評 価 ( 基 準 )	総合評価と出席日数の両方が次の規定に達した場合に認定する。 ・総合評価は60点以上を合格点とする。 ・所定の時間数の3分の2以上の出席が必要。 ※評価基準 定期試験80%、授業への意欲度20%					
教室外での 学習について						
教 科 書	『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 12 ソーシャルワークの理論と方法〔共通科目〕』(中央法規出版) 『最新 社会福祉士養成講座 6 ソーシャルワークの理論と方法〔社会専門〕』(中央法規出版)					
参 考 書						
担当者からの メ ッ セ ー ジ	2冊の教科書を学ぶには時間が足りないかもしれませんが、エッセンスをできるだけ具体的に伝えていきたいと思えます。					

必修 科目	授 業 科目名	体育（講義）/体育（実技）	担 当 教 員	川崎 詔子/中山 やよい		
	授業方法	講義/演習	開講期・年次	通年・2年次	単 位	各1単位
<b>授業目標</b>						
<p>【講義】ヒトにとって運動することの必要性について考え、幼少期から青年期の運動習慣の重要性・生涯健康で活動的な生活を送ることができるためのからだについて学び、運動の取り組み方について考える。</p> <p>【実技】生涯健康に自立した生活を送るために、自身のからだと向き合い体を動かすことの気持ち良さ、仲間と運動に取り組む楽しさを味わい、自分の生活スタイルや体力に合わせ生活習慣の中に運動を取り入れて行くことを目指す。</p>						
<b>授業内容の計画（講義 7.5 コマ/実技 22.5 コマ）</b>						
<講義>						
	1	オリエンテーション (0.5)	5	生活習慣と運動②		
	2	脳と運動	6	生活習慣と運動		
	3	骨格・筋肉・脂肪	7	健康と生涯スポーツ		
	4	生活習慣と運動①	8	まとめ		
<実技>						
	1	オリエンテーション (0.5)	13	生涯スポーツ①		
	2	体ほぐしの運動①	14	生涯スポーツ②		
	3	体ほぐしの運動②	15	校外学習		
	4	ウォーキング	16	校外学習		
	5	ポートボール	17	校外学習		
	6	縄跳び	18	校外学習		
	7	卓球①	19	ダンス①		
	8	卓球②	20	ダンス②		
	9	ドッチビー	21	ダンス③		
	10	プレルボール	22	ダンス④		
	11	ソフトバレーボール	23	ダンス・発表		
	12	バッサロ				
成 績 評 価 ( 基 準 )	総合評価と出席日数の両方が次の規定に達した場合に認定する。 ・総合評価は60点以上を合格点とする。 ・所定の時間数の3分の2以上の出席が必要。 ※評価基準 定期試験 80%、授業への意欲度 20%					
教室外での学習について	ご自身の健康維持のために無理のない範囲で、なにか一つ生活習慣の中に運動を取り入れて1年間継続してみましよう。					
教 科 書	必要に応じて適宜資料を配布する					
参 考 書	授業内で必要であれば紹介します					
担当者からのメッセージ	怪我などの防止のため、必ずトレーニングウェアを着用し、体育館シューズは靴紐でしっかりフィットするものを履くなど、運動にふさわしい格好で授業に取り組むこと。体調管理をしっかり行い、楽しんで授業に参加しましょう。					

必修 科目	授 業 科目名	教育原理	担 当 教 員	林 泰子		
	授業方法	講義	開講期・年次	前期・2年次	単 位	2
<b>授業目標</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 教育の意義、目的及び子ども家庭福祉等との関わりについて理解する。</li> <li>2 教育の思想と歴史的変遷について学び、教育に関する基礎的な理論について理解する。</li> <li>3 教育の制度について理解する。</li> <li>4 教育実践の様々な取り組みについて理解する。</li> <li>5 生涯学習社会における教育の現状と課題について理解する。</li> </ol>						
<b>授業内容の計画（15コマ）</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 教育の意義</li> <li>2 教育の目的</li> <li>3 乳幼児期の教育の特性</li> <li>4 教育と子ども家庭福祉の関連性</li> <li>5 人間形成と家庭・地域・社会等との関連性</li> <li>6 諸外国との教育の思想と歴史</li> <li>7 日本の教育の思想と歴史</li> <li>8 子ども観と教育観の変遷</li> <li>9 教育制度の基礎</li> <li>10 教育法規・教育行政の基礎</li> <li>11 諸外国の教育制度</li> <li>12 教育実践の基礎理論（内容、方法、計画と評価）</li> <li>13 教育実践の多様な取り組み</li> <li>14 生涯学習社会と教育</li> <li>15 現代の教育課題</li> </ol>						
成 績 評 価 ( 基 準 )		総合評価と出席日数の両方が次の規定に達した場合に認定する。 ・総合評価は60点以上を合格点とする。 ・所定の時間数の3分の2以上の出席が必要。 ※評価基準 定期試験80%、授業への意欲度 20%				
教 室 外 での 学 習 について		子どもや保護者の様子、教育に関わる情報などに日常から興味関心を持ち、気付いたことや情報を書きとめておきましょう。				
教 科 書		『新・基本保育シリーズ② 教育原理』（中央法規出版）				
参 考 書		『改訂3版 新保育養成講座 第2巻 教育原理』（全国社会福祉協議会）				
担 当 者 からの メ ッ セ ー ジ		人を育成する教育者として、教育の根本を学び、自らの人間性の向上も考慮した授業展開としていきます。				

必修 科目	授 業 科目名	子ども家庭支援論	担 当 教 員	小保方 敬子		
	授業方法	講義	開講期・年次	前期・2年次	単 位	2
<b>授業目標</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。</li> <li>2 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。</li> <li>3 子育て家庭に対する支援の体制について理解する。</li> <li>4 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。</li> </ol>						
<b>授業内容の計画（15コマ）</b> <u>子ども家庭支援の意義と役割</u> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 子ども家庭支援の意義と必要性</li> <li>2 子ども家庭支援の目的と機能</li> </ol> <u>子育て家庭に対する支援の体制</u> <ol style="list-style-type: none"> <li>3 子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進</li> <li>4 子育て家庭の福祉を図るための社会資源</li> </ol> <u>保育士による子ども家庭支援の意義と基本</u> <ol style="list-style-type: none"> <li>5 保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義</li> <li>6 子どもの育ちの喜びの共有</li> <li>7 保護者および地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援</li> <li>8 保育士に求められる基本的態度</li> <li>9 家庭の状況に応じた支援</li> <li>10 地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力</li> </ol> <u>多様な支援の展開と関係機関との連携</u> <ol style="list-style-type: none"> <li>11 子ども家庭支援の内容と対象</li> <li>12 保育所等を利用する子どもの家庭への支援</li> <li>13 地域の子育て家庭への支援</li> <li>14 要保護児童およびその家庭に対する支援</li> <li>15 子育て支援に関する課題と展望</li> </ol>						
成 績 評 価 ( 基 準 )		総合評価と出席日数の両方が次の規定に達した場合に認定する。 ・総合評価は60点以上を合格点とする。 ・所定の時間数の3分の2以上の出席が必要。 ※評価基準 定期試験80%、授業への意欲度 20%				
教室外での 学習について						
教 科 書		『新・基本保育シリーズ⑤ 子ども家庭支援論 第2版』（中央法規出版）				
参 考 書						
担当者からの メ ッ セ ー ジ		地域の子育て支援体制に興味・関心を持ち、現状と課題について一緒に考えていきましょう。				

必修 科目	授 業 科目名	保育者論	担 当 教 員	村上 優子		
	授業方法	講義	開講期・年次	後期・2年次	単 位	2
<b>授業目標</b>						
乳幼児期は、生涯で最も成長・発達が著しく、また、人間形成の基礎を培う重要な時期である。この大切な時期に関わる専門職としての保育者のあり方について考える。						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 保育者としての役割と倫理について理解する。</li> <li>2 保育士の制度的な位置づけを理解する。</li> <li>3 保育士の専門性について考察し、理解する。</li> <li>4 保育者の連携・協働について理解する。</li> <li>5 保育者の資質向上とキャリア形成について理解する。</li> </ol>						
上記の5項目は、厚生労働省が示した保育者論の目標である。この授業を通して、今求められている保育者としての社会的役割や専門性について具体的に学んでいく。						
<b>授業内容の計画（15コマ）</b>						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 保育者の役割・職務内容</li> <li>2 保育者の倫理</li> <li>3 保育者の資格と責務</li> <li>4 保育者の資質・能力</li> <li>5 養護及び教育の一体的展開</li> <li>6 家庭との連携と保護者に対する支援</li> <li>7 計画に基づく保育の実践と省察・評価</li> <li>8 保育の質の向上</li> <li>9 職員間の連携・協働</li> <li>10 専門職間及び専門機関との連携・協働</li> <li>11 地域社会・関係機関との連携・協働</li> <li>12 保育者の専門性と資質向上（1）</li> <li>13 保育者の専門性と資質向上（2）</li> <li>14 保育者の専門性と資質向上（3）</li> <li>15 まとめ</li> </ol>						
成 績 評 価 ( 基 準 )		総合評価と出席日数の両方が次の規定に達した場合に認定する。 ・総合評価は60点以上を合格点とする。 ・所定の時間数の3分の2以上の出席が必要。 ※評価基準 定期試験80%、授業への意欲度 20%				
教室外での 学習について						
教 科 書		『新・基本保育シリーズ⑦ 保育者論』（中央法規出版） 『保育所保育指針解説書 平成30年3月』（フレーベル館）				
参 考 書						
担当者からの メ ッ セ ー ジ		保育の情報を新聞・テレビ・インターネットなどから収集したり、社会の情勢にアンテナをはることで保育者としての役割等を学ぶことができます。				

必修 科目	授 業 科目名	子ども家庭支援の心理学	担 当 教 員	小川 万希子		
	授業方法	講義	開講期・年次	後期・2年次	単 位	2
<b>授業目標</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。</li> <li>2 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。</li> <li>3 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。</li> <li>4 子どもの精神保健とその課題について理解する。</li> </ol>						
<b>授業内容の計画（15コマ）</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 乳児期の発達</li> <li>2 幼児期の発達</li> <li>3 学童期の発達</li> <li>4 青年期の発達</li> <li>5 成人期・中年期の発達</li> <li>6 高齢期の発達</li> <li>7 特別な配慮を要する家庭</li> <li>8 子どもの生活・生育環境とその影響</li> <li>9 子どものこころの健康にかかわる問題</li> <li>10 家族・家庭の意義と機能</li> <li>11 家族関係・親子関係の理解</li> <li>12 子育ての経験と親としての育ち</li> <li>13 子育てを取り巻く社会的状況</li> <li>14 ライフコースと仕事・子育て</li> <li>15 多様な家庭とその理解</li> </ol>						
成 績 評 価 ( 基 準 )		総合評価と出席日数の両方が次の規定に達した場合に認定する。 ・総合評価は60点以上を合格点とする。 ・所定の時間数の3分の2以上の出席が必要。 ※評価基準 定期試験80%、授業への意欲度20%				
教 室 外 での 学 習 について		現代の社会状況や様々な人のありように興味を持ち、日頃から周囲をよく観察すること。また、新聞や報道の他、小説や詩などの文学にもふれて感性をみがいて欲しい。				
教 科 書		『新・基本保育シリーズ⑨ 子ども家庭支援の心理学』（中央法規出版）				
参 考 書		『子どもの障害をどう受容するか 家族支援と援助者の役割』（大月書店） 『子どものための精神医学』（医学書院）				
担 当 者 からの メ ッ セ ー ジ		自分の意見や考えを発表する機会を多く設けます。				

必修 科目	授 業 科目名	子どもの理解と援助	担 当 教 員	大西 祝		
	授業方法	演習	開講期・年次	前期・2年次	単 位	1
<b>授業目標</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。</li> <li>2 子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。</li> <li>3 子どもを理解するための具体的な方法を理解する。</li> <li>4 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。</li> </ol>						
<b>授業内容の計画（15コマ）</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 保育における子ども理解の意義</li> <li>2 子どもに対する関わりと共感的理解</li> <li>3 子どもの生活や遊び</li> <li>4 保育の人的環境としての保育者と子どもの発達</li> <li>5 子ども相互の関わりと関係づくり</li> <li>6 集団における経験と育ち</li> <li>7 発達における葛藤やつまずき</li> <li>8 保育の環境の理解と構成</li> <li>9 環境の変化や移行</li> <li>10 子ども理解のための観察・記録と省察・評価</li> <li>11 子ども理解のための職員間の対話</li> <li>12 子ども理解のための保護者との情報共有</li> <li>13 発達の課題の応じた援助とかかわり</li> <li>14 特別な配慮を要する子どもの理解と援助</li> <li>15 発達の連続性と就学への支援</li> </ol>						
成 績 評 価 ( 基 準 )		総合評価と出席日数の両方が次の規定に達した場合に認定する。 ・総合評価は60点以上を合格点とする。 ・所定の時間数の3分の2以上の出席が必要。 ※評価基準 定期試験80%、授業への意欲度 20%				
教室外での 学習について						
教 科 書		『新・基本保育シリーズ⑩ 子どもの理解と援助』（中央法規出版）				
参 考 書		資料を適宜配布する				
担当者からの メ ッ セ ー ジ						

必修 科目	授 業 科目名	子どもの食と栄養	担 当 教 員	鶴 弥生		
	授業方法	演習	開講期・年次	通年・2年次	単 位	2
<b>授業目標</b> 小児期の栄養と食生活は生涯にわたる健康と生活の基礎となり、この時期の栄養や食事内容は小児の健康や身体の発育、精神の発達、情緒の安定に大きく影響する。 保育者として、保育との関連の中で、小児に適切な食事が提供できるよう、小児期の食生活の特徴や注意点、バランスの良い献立の作成に必要な栄養素や食品構成の知識等について学び、実習を通じて習得する事を目的とする。あわせて調理の基礎的な知識と技術についても学ぶ。						
<b>授業内容の計画（30コマ）</b> 1 小児の健康な生活と食生活の意義・実習計画と諸注意 2 小児の発育、発達と食生活の基礎知識・調理の基本①（旨み体験・切り方の計量） 3 栄養と食生活の基礎知識①・調理の基本② 4 栄養と食生活の基礎知識②（5～6ヶ月・7～8ヶ月） 5 栄養と食生活の基礎知識③・離乳食（9～11ヶ月・12～18ヶ月） 6 成長段階別にみた食生活①・離乳食（ベビーフードの活用） 7 成長段階別にみた食生活②・離乳食（手づかみメニュー） 8 成長段階別にみた食生活③・離乳食（子どもと一緒におやつ作り） 9 特別な配慮を要する子どもの食と栄養①・アレルギー食 10 特別な配慮を要する子どもの食と栄養②・アレルギー食 11 特別な配慮を要する子どもの食と栄養③・アレルギー食・おやつ 12 児童福祉施設の栄養と食生活・災害食 13 食育・アレルギー食、おやつ 14 食育・グループで献立作成、実習 15 まとめ						
成 績 評 価 ( 基 準 )		総合評価と出席日数の両方が次の規定に達した場合に認定する。 ・総合評価は60点以上を合格点とする。 ・所定の時間数の3分の2以上の出席が必要。 ※評価基準 定期試験80%、授業への意欲度20%				
教室外での 学習について						
教 科 書		『新・基本保育シリーズ⑫ 子どもの食と栄養』（中央法規出版）				
参 考 書						
担当者からの メ ッ セ ー ジ		子どもたちの発育にあった食育（食を通じての教育）ができるよう基礎をしっかりと学びましょう。				



必修 科目	授 業 科目名	保育内容演習Ⅰ（人間関係）	担 当 教 員	緒方 恵子		
	授業方法	演習	開講期・年次	前期・2年次	単 位	1
<b>授業目標</b> 現代社会の人間関係の特徴、課題について学び、保育内容にどう反映していくか考察する。 保育所保育指針・幼稚園教育要領における「人間関係」について理解を深める。保育の中での人間関係の育ちについて、実際の事例をもとに考察する。						
<b>授業内容の計画（15コマ）</b> 1 保育内容「人間関係」における幼児教育の捉え方とは 2 幼児教育の根幹として、保育内容「人間関係」がもつ意味 3 乳幼児期の保育における「視点」と「人間関係」 4 保育内容「人間関係」のねらいと内容の考え方 5 保育内容「人間関係」からの「環境を通しての教育」 6 乳幼児期の発達と保育内容「人間関係」 7 信頼関係の基盤と自己と他者の関わり 8 子どもと保育者の関わり的重要性 9 子どもの人間関係の広がりを考える 10 子どもの自己主張を支え自立心の育ちへ 11 子どもの遊びの発達と人間関係 12 個と集団の関係について 13 環境に関わって育まれる協同性 14 乳幼児期の人間関係の力の育ちを見る視点 15 現代の保育の課題と保育内容「人間関係」						
成 績 評 価 ( 基 準 )	総合評価と出席日数の両方が次の規定に達した場合に認定する。 ・総合評価は60点以上を合格点とする。 ・所定の時間数の3分の2以上の出席が必要。 ※評価基準 定期試験80%、授業への意欲度 20%					
教室外での 学習について	実習先や地域の親子の関わりについて、観察する					
教 科 書	『新訂 事例で学ぶ保育内容<領域>人間関係』（萌文書林） 『保育所保育指針解説書 平成30年3月』（フレーベル館）					
参 考 書						
担当者からの メ ッ セ ー ジ	毎回のテキスト内容及び配布資料を含め必ず復習をすること。 その際、授業内容を保育者としてどのように活かせるのかについて検討し、 ブラッシュアップすることで、子ども理解をさらに深めるようにすること。					

必修 科目	授 業 科目名	保育内容演習 I (環境)	担 当 教 員	白川 晴美		
	授業方法	演習	開講期・年次	前期・2年次	単 位	1
<b>授業目標</b> 保育園の生活は人的環境、物的環境、自然環境、社会的環境で構成されています。保育者が構成する環境は、子どもの発達に大きな影響があります。また、日々の生活の中から子どもと共に作り上げていくことも大切です。環境を通して、子どもたちが主体的に生きる力を育てる為に、どんなことが必要であるか学習を行います。						
<b>授業内容の計画 (15コマ)</b> 1 オリエンテーション 授業計画と評価について 2 幼児教育の基本 第1章 3 乳幼児の育ちと領域「環境」 第2章 4 乳児1～2歳児の世界と環境 第3章 5 乳児にふさわしい環境について 演習 6 自然に親しみ、植物や生き物に触れる 第4章 7 ものや道具に関わって遊ぶ 第5章 8 文字や標識、数量や図形に関心を持つ 第6章 9 遊びや生活の情報に興味をもち、地域に親しむ 第7章 10 幼児の思考力の芽生え 第8章 11 現在の保育の課題と領域「環境」 第9章 12 室内環境を考えてみよう 13 園庭環境を考えてみよう 14 異年齢保育の環境について 15 環境としての保育者の役割						
成 績 評 価 ( 基 準 )	総合評価と出席日数の両方が次の規定に達した場合に認定する。 ・総合評価は60点以上を合格点とする。 ・所定の時間数の3分の2以上の出席が必要。 ※評価基準 定期試験80%、授業への意欲度 20%					
教室外での 学習について						
教 科 書	『新訂 事例で学ぶ保育内容〈領域〉環境』(萌文書林)					
参 考 書	『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈原本〉』(チャイルド本社) 『保育所保育指針解説書 平成30年3月』(フレーベル館)					
担当者からの メ ッ セ ー ジ	子どもたちを取り巻く状況の中で、どのような環境が必要なのでしょうか。環境が子どもたちの育ちに大きな影響を与えていきます。子どもの主体性を育む環境について、学びを深めていきましょう。					

必修 科目	授 業 科目名	図画工作Ⅱ	担 当 教 員	石橋 敦子		
	授業方法	演習	開講期・年次	前期・2年次	単 位	1
<b>授業目標</b> 美術表現の技法や色彩の基礎知識を深める。子ども達に、表現する楽しさ、おもしろさを伝えられるよう、保育現場で使用される用具、材料等に触れながらその特質を理解し、適切な教材を活用した造形表現活動の指導や援助を行う能力を養う。						
<b>授業内容の計画（15コマ）</b> 1 ガイダンス 2 色彩基礎（1）－暖色・寒色 3 色彩基礎（2）－グレースケール 4 絵画表現における技法（1）－モダンテクニック① 5 絵画表現における技法（2）－モダンテクニック② 6 絵画表現における技法（3）－技法を使った作品制作 7 絵本の製作（1） 8 絵本の製作（2） 9 粘土で製作 10 紙を使った製作（1） 11 紙を使った製作（2） 12 墨で描く 13 版画－紙版画とスチレン版画 14 デジタルデバイスを使った活動 15 発表とふりかえり						
成 績 評 価 （ 基 準 ）	総合評価と出席日数の両方が次の規定に達した場合に認定する。 ・総合評価は60点以上を合格点とする。 ・所定の時間数の3分の2以上の出席が必要。 ※評価基準 定期試験80%、授業への意欲度 20%					
教室外での 学習について						
教 科 書	必要に応じて適宜資料を配布する					
参 考 書	『造形表現・図画工作』（建帛社） 『技法あそび実践ライブ』（ひかりのくに）					
担当者からの メッセー ジ						

必修 科目	授 業 科目名	体育Ⅱ	担 当 教 員	中山 やよい		
	授業方法	演習	開講期・年次	前期・2年次	単 位	1
<p><b>授業目標</b></p> <p>乳幼児期の発達と運動との関わりについて理解し、保育理論に基づいた実践ができるようになることを目標とする。様々なあそびを体験し、広げていくことであそびの引き出しを増やす方法を学び、運動あそびを指導する上で子どもの『何が育つか』という視点から、教材研究ができるようになることを目指す。</p> <p>また、ミニ運動会を立案・計画し実施することで大きなプログラムを作る過程を学ぶ。</p> <p><b>授業内容の計画（15コマ）</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 体を使った体育・運動あそび①</li> <li>3 体を使った体育・運動あそび②</li> <li>4 用具を使った体育・運動あそび①</li> <li>5 用具を使った体育・運動あそび②</li> <li>6 用具を使った体育・運動あそび③</li> <li>7 ミニ運動会①（立案・計画）</li> <li>8 ミニ運動会②</li> <li>9 ミニ運動会③</li> <li>10 ミニ運動会④（リハーサル）</li> <li>11 ミニ運動会⑤</li> <li>12 ミニ運動会⑥</li> <li>13 親子のふれあい運動・水遊び</li> <li>14 障がいのある子どもの体育・運動あそび・幼児体育指導における安全と応急手当</li> <li>15 まとめ</li> </ol>						
成 績 評 価 ( 基 準 )	<p>総合評価と出席日数の両方が次の規定に達した場合に認定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合評価は60点以上を合格点とする。</li> <li>・所定の時間数の3分の2以上の出席が必要。</li> </ul> <p>※評価基準 定期試験80%、授業への意欲度 20%</p>					
教室外での 学習について	<p>授業内で書き留めたメモはノートにまとめ、ご自身のオリジナルノートを作成してください。作成したノートには気づきや、アイデアなどどんどん書き足していき、ご自身の宝物ノートになるよう取り組んでいってください。</p>					
教 科 書	<p>必要に応じて適宜資料を配布します</p>					
参 考 書	<p>運動あそび・表現あそび&lt;指導方法を身につける理論と実例&gt;（大学図書出版） 新版 あそびの指導&lt;乳幼児編&gt;（同文書院）</p>					
担当者からの メ ッ セ ー ジ	<p>怪我などの防止のため、必ずトレーニングウエアを着用し、体育館シューズは紐靴でしっかりフィットするものを履くなど、運動にふさわしい格好で授業に取り組むこと。怪我のないよう体調管理をしっかり行い、授業に取り組めるよう努めていきましょう。</p>					

必修 科目	授 業 科目名	乳児保育Ⅱ	担 当 教 員	白川 晴美		
	授業方法	演習	開講期・年次	後期・2年次	単 位	1
<b>授業目標</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>3歳児未満児の発育・発達の過程や、特性を踏まえた援助や、かかわりについて理解する。</li> <li>3歳児未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法、及び環境や配慮について具体的に理解する。</li> <li>乳児保育の知識、技術の基礎を理解し、保育現場での事例や実践記録から学ぶ。</li> </ol>						
<b>授業内容の計画（15コマ）</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>オリエンテーション（授業概要の説明・受講に当たっての留意点） 乳児保育の基本</li> <li>集団での生活における配慮</li> <li>環境の変化や移行に対する配慮</li> <li>沐浴のしかた、清拭のしかた、調乳、おむつ替え</li> <li>離乳食の進め方、アレルギーについて</li> <li>乳児の健康の異常、かかりやすい病気</li> <li>紙皿シアター①作成</li> <li>紙皿シアター②模擬保育</li> <li>紙皿シアター③模擬保育</li> <li>乳児の絵本</li> <li>乳児の玩具作り①</li> <li>乳児の玩具作り②</li> <li>乳児の環境について</li> <li>遊び、身体を使って遊ぼう①（わらべ歌遊び、ふれあい遊び、運動遊び）</li> <li>遊び、身体を使って遊ぼう②（わらべ歌遊び、ふれあい遊び、運動遊び）</li> <li>まとめ 授業の振り返り</li> </ol>						
成 績 評 価 ( 基 準 )	総合評価と出席日数の両方が次の規定に達した場合に認定する。 ・総合評価は60点以上を合格点とする。 ・所定の時間数の3分の2以上の出席が必要。 ※評価基準 定期試験80%、授業への意欲度20%					
教室外での 学習について						
教 科 書	『新・基本保育シリーズ⑮ 乳児保育Ⅰ・Ⅱ』（中央法規出版）					
参 考 書	『保育所保育指針 解説 平成30年3月』（フレーベル館）					
担当者からの メ ッ セ ー ジ	具体的な援助の方法と、様々な演習を通して乳児理解を深めていきましょう。					

必修 科目	授 業 科目名	子どもの健康と安全	担 当 教 員	川崎 詔子		
	授業方法	演習	開講期・年次	後期・2年次	単 位	1
<b>授業目標</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 子どもの健康増進、心身の発育発達を促す保健活動を学ぶ。</li> <li>2 乳幼児期の養護やケアについての知識と技術を身につける。</li> <li>3 疾患に罹患した時の対応や疾病の予防について学ぶ。</li> <li>4 体調の急変や緊急時に適切に対応できる知識と技術を学ぶ。</li> <li>5 地域の保健、福祉機関の活動や役割を知り、連携や協働について学ぶ。</li> <li>6 事故や災害時に起こりうる事態を予測し、発生時の的確な判断と行動、日常の備えについて学ぶ。</li> </ol>						
<b>授業内容の計画 (15コマ)</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 子どもの健康と保育環境</li> <li>2 子どもの保健に関する個別対応と集団全体の健康</li> <li>3 衛生管理</li> <li>4 事故防止および安全策</li> <li>5 災害への備えと危機管理</li> <li>6 体調不良や傷害が発生した場合の対応</li> <li>7 救急処置および救急蘇生法</li> <li>8 感染症の集団発生と予防、対応</li> <li>9 保育における保健的対応の基本的考え方</li> <li>10 3歳未満児への適切な対応</li> <li>11 個別的な配慮を必要とする子どもへの対応</li> <li>12 障がいのある子どもへの適切な対応</li> <li>13 職員間の連携・協働と組織的取り組み</li> <li>14 保育における保健計画および評価</li> <li>15 子どもを中心とした家庭・専門機関・地域との連携</li> </ol>						
成 績 評 価 ( 基 準 )		総合評価と出席日数の両方が次の規定に達した場合に認定する。 ・総合評価は60点以上を合格点とする。 ・所定の時間数の3分の2以上の出席が必要。 ※評価基準 定期試験80%、授業への意欲度 20%				
教室外での 学習について		授業内では教科書に掲載されていないことも出てきます。しっかりと授業に集中し、大切と思われることにはメモを取り、自宅では復習をしてください。				
教 科 書		『新・基本保育シリーズ⑩ 子どもの健康と安全』(中央法規出版)				
参 考 書						
担当者からの メ ッ セ ー ジ		今の多様化する社会の中で育つ乳幼児の健康を保証するためにはどんなことができるでしょうか？教科書の知識を頭に詰め込むだけではなく、現場では基本の知識を応用し、様々な物事に柔軟に対処できる能力が必要と考えています。沢山の語り合いと学びを共有できる授業になることを願っています。				

必修 科目	授 業 科目名	障害児保育	担 当 教 員	宮地 ゆうじ																						
	授業方法	演習	開講期・年次	通年・2年次	単 位	2																				
<b>授業目標</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 障害児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害児及びその保育について理解する。</li> <li>2 個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解する。</li> <li>3 障害児やその他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について理解する。</li> <li>4 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解する。</li> <li>5 障害児の他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について理解する。</li> </ol>																										
<b>授業内容の計画（30コマ）</b> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">1 障害の概念と障害児保育の歴史的変遷</td> <td style="width: 50%;">1 1 子ども同士のかかわりと育ち合い</td> </tr> <tr> <td>2 障害のある子どもの地域社会への参加・包容 (インクルージョン) 及び合理的配慮の理解と 障害児保育の基本</td> <td>1 2 障害児保育における子どもの健康と安全 1 3 職員間の連携・協働 1 4 保護者や家族に対する理解と支援</td> </tr> <tr> <td>3 肢体不自由児、知的障害児の理解と援助</td> <td>1 5 保護者間の交流や支え合いの意義と その支援</td> </tr> <tr> <td>4 視覚障害・聴覚障害・言語障害児等の理解と援助</td> <td>1 6 障害児支援の制度の理解と地域における 自治体や関係機関（保育所、児童発達支 援センター等）の連携・協働</td> </tr> <tr> <td>5 発達障害児の理解と援助① (ADHD－注意欠陥多動性障害、LD－学習障害等)</td> <td>1 7 小学校等との連携</td> </tr> <tr> <td>6 発達障害児の理解と援助② (PDD－広汎性発達障害等)</td> <td>1 8 保健・医療における現状と課題</td> </tr> <tr> <td>7 重症心身障害児、医療的ケア児の理解と援助</td> <td>1 9 福祉・教育における現状と課題</td> </tr> <tr> <td>8 その他の特別な配慮を要する子どもの理解と援助</td> <td>2 0 支援の場の広がりとなつながら</td> </tr> <tr> <td>9 指導計画及び個別の支援計画の作成</td> <td></td> </tr> <tr> <td>1 0 個々の発達を促す生活や遊びの環境</td> <td></td> </tr> </table>							1 障害の概念と障害児保育の歴史的変遷	1 1 子ども同士のかかわりと育ち合い	2 障害のある子どもの地域社会への参加・包容 (インクルージョン) 及び合理的配慮の理解と 障害児保育の基本	1 2 障害児保育における子どもの健康と安全 1 3 職員間の連携・協働 1 4 保護者や家族に対する理解と支援	3 肢体不自由児、知的障害児の理解と援助	1 5 保護者間の交流や支え合いの意義と その支援	4 視覚障害・聴覚障害・言語障害児等の理解と援助	1 6 障害児支援の制度の理解と地域における 自治体や関係機関（保育所、児童発達支 援センター等）の連携・協働	5 発達障害児の理解と援助① (ADHD－注意欠陥多動性障害、LD－学習障害等)	1 7 小学校等との連携	6 発達障害児の理解と援助② (PDD－広汎性発達障害等)	1 8 保健・医療における現状と課題	7 重症心身障害児、医療的ケア児の理解と援助	1 9 福祉・教育における現状と課題	8 その他の特別な配慮を要する子どもの理解と援助	2 0 支援の場の広がりとなつながら	9 指導計画及び個別の支援計画の作成		1 0 個々の発達を促す生活や遊びの環境	
1 障害の概念と障害児保育の歴史的変遷	1 1 子ども同士のかかわりと育ち合い																									
2 障害のある子どもの地域社会への参加・包容 (インクルージョン) 及び合理的配慮の理解と 障害児保育の基本	1 2 障害児保育における子どもの健康と安全 1 3 職員間の連携・協働 1 4 保護者や家族に対する理解と支援																									
3 肢体不自由児、知的障害児の理解と援助	1 5 保護者間の交流や支え合いの意義と その支援																									
4 視覚障害・聴覚障害・言語障害児等の理解と援助	1 6 障害児支援の制度の理解と地域における 自治体や関係機関（保育所、児童発達支 援センター等）の連携・協働																									
5 発達障害児の理解と援助① (ADHD－注意欠陥多動性障害、LD－学習障害等)	1 7 小学校等との連携																									
6 発達障害児の理解と援助② (PDD－広汎性発達障害等)	1 8 保健・医療における現状と課題																									
7 重症心身障害児、医療的ケア児の理解と援助	1 9 福祉・教育における現状と課題																									
8 その他の特別な配慮を要する子どもの理解と援助	2 0 支援の場の広がりとなつながら																									
9 指導計画及び個別の支援計画の作成																										
1 0 個々の発達を促す生活や遊びの環境																										
成 績 評 価 ( 基 準 )	総合評価と出席日数の両方が次の規定に達した場合に認定する。 ・総合評価は60点以上を合格点とする。 ・所定の時間数の3分の2以上の出席が必要。 ※評価基準 定期試験80%、授業への意欲度 20%																									
教室外での 学習について																										
教 科 書	『新・基本保育シリーズ⑰ 障害児保育』（中央法規出版）																									
参 考 書																										
担当者からの メ ッ セ ー ジ																										

必修 科目	授 業 科目名	社会的養護Ⅱ	担 当 教 員	村江 昇		
	授業方法	演習	開講期・年次	後期・2年次	単 位	1
<b>授業目標</b> 児童虐待が社会問題となり、その防止に国を挙げ取り組んでいるところですが、一層深刻の度を増しています。それに伴って児童福祉施設や里親など社会的養護のもとで生活する子どもが増えています。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1 子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解する。</li> <li>2 施設養護及び家庭養護の実際について理解する。</li> <li>3 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際や相談援助の方法・技術について理解する。</li> <li>4 社会的養護における子どもの虐待の防止と家庭支援について理解する。</li> </ol>						
<b>授業内容の計画（15コマ）</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 子どもの権利擁護について</li> <li>2 社会的養護における子どもの理解</li> <li>3 社会的養護における日常生活支援</li> <li>4 社会的養護における心理的支援</li> <li>5 社会的養護における自立支援</li> <li>6 施設養護の生活特性および実際：乳児院等</li> <li>7 施設養護の生活特性および実際：障害児施設等</li> <li>8 家庭養護の生活特性および実際</li> <li>9 アセスメントと個別支援計画の作成</li> <li>10 記録および自己評価</li> <li>11 社会的養護における保育の専門性にかかわる知識・技術とその実践</li> <li>12 社会的養護にかかわる相談援助の知識・技術とその実践</li> <li>13 社会的養護におけるソーシャルワーク（知識・技術とその応用）</li> <li>14 社会的養護における家庭支援</li> <li>15 今後の社会的養護の課題と展望</li> </ol>						
成 績 評 価 ( 基 準 )	総合評価と出席日数の両方が次の規定に達した場合に認定する。 ・総合評価は60点以上を合格点とする。 ・所定の時間数の3分の2以上の出席が必要。 ※評価基準 定期試験80%、授業への意欲度 20%					
教室外での 学習について						
教 科 書	『新・基本保育シリーズ⑱ 社会的養護Ⅱ』（中央法規出版）					
参 考 書						
担当者からの メ ッ セ ー ジ	社会的養護の基本理念である「子どもの最善の利益」そして「すべての子どもを社会全体で育む」についてともに学習しましょう。					



必修 科目	授 業 科目名	子育て支援	担 当 教 員	平林 大佑※		
	授業方法	演習	開講期・年次	後期・2年次	単 位	1
<b>実務経験のある教員等による科目</b> 保育の現場経験を基に、保護者との信頼関係の築き方から支援の方法まで具体的な事例を踏まえ、授業を展開していく <b>授業目標</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 子育て支援の意義と原則について理解する。</li> <li>2 幼稚園、こども園、保育所等の施設における保育者支援の実際について理解する。</li> <li>3 子育て支援の実際を学び、内容や方法を理解する。</li> </ol> <b>授業内容の計画（15コマ）</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション（授業概要の説明・受講に当たっての留意点） 保育の特性と保育士の専門性を生かした支援</li> <li>2 保護者との相互理解と信頼関係の形成</li> <li>3 支援のニーズと多面的な理解</li> <li>4 子どもおよび保護者の状況・状態の把握</li> <li>5 支援の計画と環境の構成</li> <li>6 支援の実際・記録・評価・カンファレンス</li> <li>7 職員間の連携・協働</li> <li>8 社会的資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働</li> <li>9 保育所などにおける支援</li> <li>10 地域の子育て家庭に対する支援</li> <li>11 障害のある子どもおよびその家庭に関する支援</li> <li>12 特別な配慮を要する子どもおよびその家庭に対する支援</li> <li>13 子どもの虐待の予防と対応</li> <li>14 要保護児童等の家庭に対する支援</li> <li>15 多様な支援ニーズをかかえる子育て支援家庭への理解</li> </ol>						
成 績 評 価 ( 基 準 )		総合評価と出席日数の両方が次の規定に達した場合に認定する。 ・総合評価は60点以上を合格点とする。 ・所定の時間数の3分の2以上の出席が必要。 ※評価基準 定期試験80%、授業への意欲度 20%				
教室外での 学習について						
教 科 書		「新・基本保育シリーズ⑱ 子育て支援」(中央法規出版)				
参 考 書						
担当者からの メ ッ セ ー ジ		保育士として専門性を持って、保護者の子育てを支援する様々な方法について学びましょう。				

必修 科目	授 業 科目名	保育実践演習Ⅱ	担 当 教 員	新井 久/鹿島 夕紀		
	授業方法	演習	開講期・年次	後期・2年次	単 位	1
<b>授業目標</b> 幼児音楽を実践するという観点から、もう一度、2年間で修得した音楽活動の知識と選曲の留意点などを振り返り修得を確認する。						
<b>授業内容の計画（15コマ）</b> 1 卒業演奏会のための課題曲（個人・合奏・合唱など）決定 2 卒業演奏会のための課題曲練習（個人・合奏・合唱など） 3 卒業演奏会のための課題曲練習（個人・合奏・合唱など） 4 卒業演奏会のための課題曲練習（個人・合奏・合唱など） 5 卒業演奏会のための課題曲練習（個人・合奏・合唱など） 6 卒業演奏会のための課題曲練習（個人・合奏・合唱など） 7 卒業演奏会のための課題曲練習（個人・合奏・合唱など） 8 卒業演奏会のための課題曲練習（個人・合奏・合唱など） 9 卒業演奏会のための課題曲練習（個人・合奏・合唱など） 10 卒業演奏会のための課題曲練習（個人・合奏・合唱など） 11 卒業演奏会のための課題曲練習（個人・合奏・合唱など） 12 卒業演奏会のための課題曲練習（個人・合奏・合唱など） 13 卒業演奏会のための課題曲練習（個人・合奏・合唱など） 14 後期実技定期試験リハーサル 15 後期実技定期試験						
成 績 評 価 ( 基 準 )	総合評価と出席日数の両方が次の規定に達した場合に認定する。 ・総合評価は60点以上を合格点とする。 ・所定の時間数の3分の2以上の出席が必要。 ※評価基準 定期試験 80%、授業への意欲度 20%					
教室外での 学習について	就職の実技試験がある場合は意欲的に取り組んでください。個人対応しますので積極的に申し出て下さい。					
教 科 書	必要に応じて適宜楽譜を各自用意する。					
担当者からの メ ッ セ ー ジ	授業に出席を基本とし、2年間の集大成でもある卒業演奏会に向けて意欲的に取り組んでいきましょう。					

必修 科目	授 業 科目名	保育内容演習Ⅱ（表現）〔音楽〕	担 当 教 員	新井 久/鹿島 夕紀		
	授業方法	演習	開講期・年次	前期・2年次	単 位	1
<b>授業目標</b> 保育内容演習Ⅰ（表現）の学習をふまえて、保育の領域に関して保育内容の研究を深めていく。幼児が共同作業の大切さ、集団の中での個の役割を実感出来るような指導を目標とする。1年目に引き続き、合奏楽器の演奏技術と個人のピアノ技術の向上と、劇、ミュージカルなど「合わせる」難しさを経験し、課題として学習していく。						
<b>授業内容の計画（15コマ）</b> 1 ガイダンス 実技に関する到達目標を立て、年齢別の劇遊び、ミュージカルの内容説明と練習計画 2 台本の登場人物、台詞、音楽、制作物、材料などを決定する 3 実践演習 通し練習をしながら衣装・小・大道具作成と楽器演奏練習 4 実践演習 通し練習をしながら衣装・小・大道具作成と楽器演奏練習 5 実践演習 通し練習をしながら衣装・小・大道具作成と楽器演奏練習 6 実践演習 通し練習をしながら衣装・小・大道具作成と楽器演奏練習 7 実践演習 通し練習をしながら衣装・小・大道具作成と楽器演奏練習 8 実践演習 通し練習 舞台セットの配置・移動など 9 実践演習 通し練習 舞台セットの配置・移動など 10 実践演習 通し練習 カメラテスト 11 実践演習 通し練習 カメラテスト 12 実践演習 通し練習 カメラテスト 13 実践演習 通し練習 カメラテスト 14 実践演習 リハーサル 15 発表とまとめ						
成 績 評 価 （ 基 準 ）		総合評価と出席日数の両方が次の規定に達した場合に認定する。 ・総合評価は60点以上を合格点とする。 ・所定の時間数の3分の2以上の出席が必要。 ※評価基準 定期試験80%、授業への意欲度20%				
教室外での 学習について		積極的に時間を作ってピアノの練習をして下さい。 ピアノは自主練習が何より大切です。				
教 科 書		改訂 幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育（教育芸術社） 新版 和音伴奏による幼児のうた100曲 第2版（全音楽譜出版社） 幼稚園教諭・保育士養成課程 子どものための音楽表現技術 感性と実践力豊かな保育者へ〈第3版〉（萌文書林）				
担当者からの メ ッ セ ー ジ		グループでの発表は、各々の役割と合わせることを意識して取り組みましょう。				

必修 科目	授 業 科目名	保育内容演習Ⅱ(表現)[図画工作]	担 当 教 員	安田 賀津子		
	授業方法	演習	開講期・年次	後期・2年次	単 位	1
<b>授業目標</b> 1. 「造形表現」のねらい、内容、育みたい資質や能力について活動を通して理解する。 2. 造形遊びの展開を考え、援助者としての関わり方を学ぶ。 3. こどもが参加したくなる造形遊びを考え、具体的にどのように援助するのかを指導案上にまとめ、 実践(模擬保育)・評価・改善に取り組む。						
<b>授業内容の計画</b> 1 模擬保育について 2 指導計画案について 3 グループワーク(1) 4 グループワーク(2) 5 指導計画案の作成 6 グループワーク(3) 7 グループワーク(4) 8 発表(模擬保育)(1) 9 発表(模擬保育)(2) 10 振り返り 11 発表(模擬保育)(3) 12 発表(模擬保育)(4) 13 振り返り 14 発表(模擬保育)(5) 15 振り返り						
成 績 評 価 ( 基 準 )		総合評価と出席日数の両方が次の規定に達した場合に認定する。 ・総合評価は60点以上を合格点とする。 ・所定の時間数の3分の2以上の出席が必要。 ※評価基準 定期試験80%、授業への意欲度20%				
教室外での 学習について						
教 科 書		必要に応じて適宜資料を配布する				
参 考 書		保育所保育指針解説(厚生労働省) 保育内容表現[第2版]新時代の保育双書(株式会社みらい) 0・1・2歳児の造形あそび実践ライブ(ひかりのくに株式会社) 3・4・5歳児の楽しく絵を描く実践ライブ(ひかりのくに株式会社) 保育をひらく造形表現(萌文書林)				
担当者からの メッセー ジ		子どもの目線、保護者の目線、保育者の目線を意識して造形活動に取り組んでください。				

必修 科目	授 業 科目名	音楽Ⅲ	担 当 教 員	新井 久/鹿島 夕紀		
	授業方法	演習	開講期・年次	前期・2年次	単 位	1
<b>授業目標</b> 「音楽Ⅰ」で学習した音楽理論や、「音楽Ⅱ」「保育実践演習Ⅰ」で学習した歌唱法を実践的な保育に生かすため、幼児への歌唱指導を目的とした模擬授業を行い、その中で、コードの理解、コードを用いた簡単な伴奏付け、移調など、保育現場を意識した内容を学習していく。 さらに、模擬授業の歌唱においては子どもの表現力を引き出すための知識や技術を習得する。						
<b>授業内容の計画（15コマ）</b> 1 音楽Ⅲ概要説明 2 音楽理論 伴奏のアレンジ 3 音楽理論 音程、コード 4 音楽理論 移調 5 模擬授業の練習 6 模擬授業の練習 7 模擬授業の練習と指導計画作成 8 模擬授業の練習と指導計画作成 9 模擬授業の練習と指導計画作成 10 模擬授業の練習と指導計画作成 11 模擬授業の練習と指導計画作成 12 模擬授業の練習と指導計画作成 13 模擬授業の練習と指導計画作成 14 模擬授業の練習とリハーサル 15 模擬授業発表とまとめ						
成 績 評 価 ( 基 準 )		総合評価と出席日数の両方が次の規定に達した場合に認定する。 ・総合評価は60点以上を合格点とする。 ・所定の時間数の3分の2以上の出席が必要。 ※評価基準 定期試験80%（授業内の実技試験含む）、授業への意欲度20%。				
教室外での 学習について		積極的に時間を作ってピアノの練習をして下さい。 ピアノは自主練習が何より大切です。				
教 科 書		幼稚園教諭・保育士養成課程 子どものための音楽表現技術 感性と実践力豊かな保育者へ〈第3版〉（萌文書林） 改訂 幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育（教育芸術社） 新版 和音伴奏による幼児のうた100曲 第2版（全音楽譜出版社）				
参 考 書						
担当者からの メ ッ セ ー ジ		ピアノを弾きながら子ども達に指導が出来るように積極的にピアノ伴奏の練習に取り組みましょう。				

必修 科目	授 業 科目名	体育Ⅲ	担 当 教 員	中山 やよい		
	授業方法	演習	開講期・年次	後期・2年次	単 位	1
<p><b>授業目標</b></p> <p>1年次、2年次前期で学習したことを最大限活かし、実際に保育プログラムを考案して指導案を作成する。作成した指導案をもとに模擬授業を行い、保育者の立場・子どもの立場を体験し、また客観的に模擬保育を観察して良かった点や改善点などを振り返り、この模擬授業を通して実践ができるようになることを目指す。</p> <p><b>授業内容の計画（15コマ）</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション・保育における体育あそびの計画①</li> <li>2 保育における体育あそびの計画②・グループ分け</li> <li>3 模擬授業① 計画</li> <li>4 模擬授業① 実践 振り返り</li> <li>5 模擬授業① 実践 振り返り</li> <li>6 模擬授業① 実践 振り返り</li> <li>7 模擬授業② 計画</li> <li>8 模擬授業② 実践 振り返り</li> <li>9 模擬授業② 実践 振り返り</li> <li>10 模擬授業② 実践 振り返り</li> <li>11 模擬授業③ 計画</li> <li>12 模擬授業③ 実践 振り返り</li> <li>13 模擬授業③ 実践 振り返り</li> <li>14 模擬授業③ 実践 振り返り</li> <li>15 まとめ</li> </ol>						
成 績 評 価 ( 基 準 )		<p>総合評価と出席日数の両方が次の規定に達した場合に認定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合評価は60点以上を合格点とする。</li> <li>・所定の時間数の3分の2以上の出席が必要。</li> </ul> <p>※評価基準 定期試験 80%、授業への意欲度 20%</p>				
教室外での 学習について		<p>授業内で書き留めたメモはノートにまとめ、ご自身のオリジナルノートを作成してください。作成したノートには気づきや、アイデアなどどんどん書き足していき、ご自身の宝物ノートになるよう取り組んでいってください。</p>				
教 科 書		<p>必要に応じて適宜資料を配布します</p>				
参 考 書		<p>運動あそび・表現あそび&lt;指導方法を身につける理論と実例&gt; (大学図書出版) 新版 あそびの指導&lt;乳幼児編&gt; (同文書院)</p>				
担当者からの メ ッ セ ー ジ		<p>怪我などの防止のため、必ずトレーニングウエアを着用し、体育館シューズは紐靴でしっかりフィットするものを履くなど、運動にふさわしい格好で授業に取り組むこと。怪我のないよう体調管理をしっかり行い、授業に取り組めるよう努めていきましょう。</p>				

必修 科目	授 業 科目名	施設実習 I	担 当 教 員	小保方 敬子/平林 大佑		
	授業方法	実習	開講期・年次	前期・2年次	単 位	2
<p><b>授業の目標</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。</li> <li>2 観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。</li> <li>3 既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する。</li> <li>4 保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。</li> <li>5 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。</li> </ol> <p><b>授業内容の計画</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 施設の役割と機能 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 施設における子どもの生活と保育士の援助や関わり</li> <li>(2) 施設の役割と機能</li> </ol> </li> <li>2 子ども理解 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 子どもの観察とその記録</li> <li>(2) 個々の状態に応じた援助や関わり</li> </ol> </li> <li>3 施設における子どもの生活と環境 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 計画に基づく活動や援助</li> <li>(2) 子どもの心身の状態に応じた生活と対応</li> <li>(3) 子どもの活動と環境</li> <li>(4) 健康管理、安全対策の理解</li> </ol> </li> <li>4 計画と記録 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 支援計画の理解と活用</li> <li>(2) 記録に基づく省察・自己評価</li> </ol> </li> <li>5 専門職としての保育士の役割と倫理 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 保育士の業務内容</li> <li>(2) 職員間の役割分担や連携</li> <li>(3) 保育士の役割と職業倫理</li> </ol> </li> </ol>						
成 績 評 価 ( 基 準 )	総合評価と実習時間及び日数の両方が次の規定に達した場合に認定する。 ・評価基準 実習施設と担当教員の総合評価は60点以上を合格点とする。 ・実習時間及び日数は80時間かつ10日間以上が必要					
教室外での 学習について	実習先に訪問してオリエンテーションを受ける。					
教 科 書	『新・基本保育シリーズ⑳ 保育実習』（中央法規出版） 『保育所保育指針解説 平成30年3月』（フレーベル館）					
担当者からの メ ッ セ ー ジ	2回目の配属実習として、保育所実習で見つけた課題を整理し、臨んでください。					

選 択 必 修	授 業 科 目 名	保 育 所 実 習 Ⅱ	担 当 教 員	小保方 敬子/平林 大佑		
	授 業 方 法	実 習	開 講 期 ・ 年 次	後 期 ・ 2 年 次	単 位	2
<b>授業目標</b> 保育実習Ⅰで経験したこと、および諸教科で学んだことを踏まえ、より深めた保育所実習として、保育所保育士としての役割や知識、指導技術を取得するとともに、併せて、児童観、保育観の確立をめざす実習にしたい。子育て支援対応の特別保育事業の実際を知り機会があれば積極的に参加する。具体的には、 1. 保育所における保育計画、指導計画などの理解と立案、およびその実践。2. デイリープログラムについての理解と実践。3. 乳幼児保育の実践。4. 乳幼児の個人差、発達の遅れた乳幼児への個人的配慮など、具体例を通しての学習と理解。5. 保護者との連携方法、家庭と保育所との関係を具体的に知る。障害児保育、延長保育、一時保育、夜間保育など特別保育事業に取り組む保育所の具体的な対応とその実践についての学習と理解について、積極的に実習する。又、保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解し、実習における自己の課題を明確化することを目指す。						
<b>授業内容の計画（80時間）</b> 1 保育全般に参加し、保育技術を習得する。 2 子どもの個人差について理解し、対応方法を習得する。 （特に発達の遅れや生活環境にともなう子どものニーズを理解し、その対応について学ぶ） 3 指導計画を立案し、実際に実践する。 4 子どもの家族とのコミュニケーションの方法を、具体的に習得する。 5 地域社会に対する理解を深め、連携の方法について具体的に学ぶ。 6 子どもの最善の利益への配慮を学ぶ。 7 保育士としての職業倫理を理解する。 8 保育所の保育士に求められる資質・能力・技術に照らし合わせて、実習における自己の課題を明確化する等。						
成 績 評 価 ( 基 準 )	総合評価と実習時間及び日数の両方が次の規定に達した場合に認定する。 ・評価基準 実習施設と担当教員の総合評価は60点以上を合格点とする。 ・実習時間及び日数は80時間かつ10日間以上が必要					
教 室 外 での 学 習 について						
教 科 書	『新・基本保育シリーズ⑳ 保育実習』（中央法規出版） 『保育所保育指針解説 平成30年3月』（フレーベル館）					
参 考 書						
担 当 者 からの メ ッ セ ー ジ	3回目の保育実習として、就職に繋げる実習にして下さい。					



選 択 必 修	授 業 科目名	施設実習Ⅱ	担 当 教 員	小保方 敬子/平林 大佑		
	授業方法	実習	開講期・年次	後期・2年次	単 位	2
<b>授業目標</b> 児童福祉施設（保育所以外）の役割や機能について実践を通して、理解を深める。 特に、家庭と地域の生活実態にふれ、子ども家庭福祉、社会的養護、障害児支援に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を習得する。 又、保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解し、実習における自己の課題を理解することを目指す。						
<b>授業内容の計画（80時間）</b> 1 児童福祉施設等（保育所以外）の役割と機能 2 施設における支援の実際 (1) 受容し、共感する態度 (2) 個人差や生活環境に伴う子ども（利用者）のニーズの把握と子ども理解 (3) 個別支援計画の作成と実践 (4) 子ども（利用者）の家族への支援と対応 (5) 各施設における多様な専門職との連携・協働 (6) 地域社会との連携・協働 3 保育士の多様な業務と職業倫理 4 保育士としての自己課題の明確化						
成 績 評 価 ( 基 準 )	総合評価と実習時間及び日数の両方が次の規定に達した場合に認定する。 ・評価基準 実習施設と担当教員の総合評価は60点以上を合格点とする。 ・実習時間及び日数は80時間かつ10日間以上が必要					
教室外での 学習について	施設に関する事前学習、事後の振り返りに積極的に取り組むことを期待します。					
教 科 書	『新・基本保育シリーズ⑳ 保育実習』（中央法規出版） 『保育所保育指針解説 平成30年3月』（フレーベル館）					
参 考 書						
担当者からの メ ッ セ ー ジ	3回目の保育実習として、就職に繋げる実習にしてください。					

選 択 必 修	授 業 科 目 名	保 育 実 習 指 導 Ⅱ ・ Ⅲ	担 当 教 員	平 林 大 佑 ※		
	授 業 方 法	演 習	開 講 期 ・ 年 次	通 年 ・ 2 年 次	単 位	1
<b>実務経験のある教員等による科目</b> 保育現場の経験を基に、実践的な保育技術の獲得や職業倫理について様々な視点から授業を展開していく <b>授業目標</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。</li> <li>2 実習や既存の教科内容やその関連性を踏まえ、実践的な保育技術を獲得する。</li> <li>3 保育の観察、記録及び自己評価などを踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。</li> <li>4 実習前から実習後の一連の学びを通して、自己評価を行うことで、保育に対する課題や認識を明確化する。</li> <li>5 保育士の専門性と職業倫理について理解する。</li> </ol> <b>授業内容の計画</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション（授業概要の説明・受講に当たっての留意点）</li> <li>2 保育実習の目的と概要</li> <li>3 子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解</li> <li>4 子ども（利用者）の状態に応じた適切なかわり</li> <li>5 保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践 事前学習・実践（個人支援計画の作成）</li> <li>6 保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善（記録オリエンテーション）</li> <li>7 保育士の専門性と職業倫理</li> <li>8 子どもの保育と保育実践（設定保育の計画）</li> <li>9 手遊び 学習と演習</li> <li>10 絵本・紙芝居 学習と演習</li> <li>11 ゲーム遊び 学習と演習</li> <li>12 児童施設概要</li> <li>13 実習事前指導</li> <li>14 事後指導における実習の総括と自己評価</li> <li>15 事後指導における課題の明確化（自己課題の発表）</li> </ol>						
成 績 評 価 ( 基 準 )	総合評価と出席日数の両方が次の規定に達した場合に認定する。 ・総合評価は60点以上を合格点とする。 ・所定の時間数の3分の2以上の出席が必要。 ※評価基準 定期試験80%、授業への意欲度 20%					
教 室 外 での 学 習 について						
教 科 書	『新・基本子育てシリーズ⑳ 保育実習』（中央法規出版） 『保育所保育指針解説 平成30年3月』（フレーベル館）					
参 考 書						
担 当 者 からの メ ッ セ ー ジ	実習の意義を確認し、より実践的な内容を学びを深めることを目的としています。 実習を通して、成長できるように学習を進めていきましょう。					

選 択 科 目	授 業 科 目 名	高 齢 者 福 祉	担 当 教 員	古 谷 泰 啓		
	授 業 方 法	講 義	開 講 期 ・ 年 次	前 期 ・ 2 年 次	単 位	1
<p><b>授業目標</b></p> <p>高齢者福祉の歴史とその展開、明治以降の3大革命を中心に介護保険制度と関連諸施策を学ぶ</p> <p><b>授業内容の計画</b>（8コマ）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 高齢者と少子高齢社会・生活実態</li> <li>2 高齢者保健福祉の歴史と理念</li> <li>3 介護保険法（1）</li> <li>4 介護保険法（2）</li> <li>5 高齢者に対する関連諸制度（1）</li> <li>6 高齢者に対する関連諸制度（2）</li> <li>7 高齢者支援における関係機関と専門職の役割</li> <li>8 総復習</li> </ol>						
成 績 評 価 （ 基 準 ）		<p>総合評価と出席日数の両方が次の規定に達した場合に認定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合評価は60点以上を合格点とする。</li> <li>・所定の時間数の3分の2以上の出席が必要。</li> </ul> <p>※評価基準 定期試験80%、授業への意欲度 20%</p>				
教 室 外 で の 学 習 に つ い て						
教 科 書		『最新 社会福祉士養成講座2 高齢者福祉』（中央法規出版）				
参 考 書						
担 当 者 か ら の メ ッ セ ー ジ						

選 択 科 目	授 業 科目名	社会保障	担 当 教 員	堀川 茂野		
	授業方法	講義	開講期・年次	後期・2年次	単 位	1
<p><b>授業目標</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>めまぐるしく変化する現代社会の実態を理解し、生活者としての国民が抱える問題に関心が持てる。</li> <li>社会保障の基本的な考え方や、歴史的な成り立ちが理解できる。</li> <li>社会保障制度を財政の側面からとらえ、社会保障制度全体でみた収入と支出が理解できる。</li> <li>社会保険と社会扶助を対比させ、それぞれの特徴、長所・短所、課題について理解できる。</li> <li>社会保障の各制度の概要が説明できる。ソーシャルワーカーとして基本的な仕組みと考え方が理解できる。</li> <li>グローバル化している世界にあって、国際社会における政治・経済の動きに関心が持てる。</li> </ol> <p><b>授業内容の計画（8コマ）</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>現代社会と社会保障</li> <li>社会保障の概念や対象およびその理念</li> <li>社会保障の財源</li> <li>社会保険・社会扶助・民間保険の関係</li> <li>社会保障制度の体系(医療保険制度・介護保険制度)</li> <li>社会保障制度の体系(年金保険制度・生活保護制度・社会手当制度)</li> <li>社会保障制度の体系(労災保険制度・雇用保険制度・社会福祉制度)</li> <li>諸外国における社会保障制度</li> </ol>						
成 績 評 価 ( 基 準 )		総合評価と出席日数の両方が次の規定に達した場合に認定する。 ・総合評価は60点以上を合格点とする。 ・所定の時間数の3分の2以上の出席が必要。 ※評価基準 定期試験80%、授業への意欲度 20%				
教室外での 学習について		想定しません				
教 科 書		『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座7 社会保障』（中央法規出版）				
参 考 書		社会福祉士の国家試験対策としては、 「重要項目これだけ&問題集」日本メディカル福祉専門学校国家試験対策委員会発行				
担当者からの メ ッ セ ー ジ		保育人材として、こどもとその家庭の支援に当たるに際して、最低限知っていただきたい社会保障制度、社会サービスについての知識をお伝えします。				

選 択 科 目	授 業 科目名	福祉サービスの組織と経営	担 当 教 員	西川 孝		
	授業方法	講義	開講期・年次	後期・2年次	単 位	1
<b>授業目標</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>福祉サービスにかかわる組織や団体（社会福祉法人、特定非営利活動法人、医療法人、営 利法人、市民団体、自治会など）について理解する。</li> <li>福祉サービスの組織と経営にかかわる基礎理論について理解する。</li> <li>福祉サービスの経営と管理運営について理解する。</li> </ol> <b>授業内容の計画（8コマ）</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>福祉サービスにおける組織と経営 <ol style="list-style-type: none"> <li>福祉サービスにおける組織・経営</li> <li>福祉サービスと制度</li> </ol> </li> <li>福祉サービスにおける組織や団体 <ol style="list-style-type: none"> <li>法人とは</li> <li>社会福祉法人</li> <li>特定非営利活動法人</li> <li>その他の組織や団体</li> </ol> </li> <li>福祉サービスの組織と経営の基礎理論 <ol style="list-style-type: none"> <li>戦略、事業計画</li> <li>組織</li> <li>管理運営の基礎理論</li> <li>集団の力学に関する基礎理論</li> <li>リーダーシップに関する基礎理論</li> </ol> </li> <li>福祉サービスの管理運営の方法 <ol style="list-style-type: none"> <li>サービス管理</li> <li>人事管理と労務管理</li> <li>会計管理と財務管理</li> <li>情報管理と戦略的広報</li> </ol> </li> </ol>						
成 績 評 価 ( 基 準 )		総合評価と出席日数の両方が次の規定に達した場合に認定する。 ・総合評価は60点以上を合格点とする。 ・所定の時間数の3分の2以上の出席が必要。 ※評価基準 定期試験80%、授業への意欲度 20%				
教室外での 学習について						
教 科 書		『最新・社会福祉士養成講座第1 福祉サービスの組織と経営』（中央法規出版）				
参 考 書						
担当者からの メ ッ セ ー ジ						

選 択 科 目	授 業 科目名	社会福祉調査の基礎	担 当 教 員	松原 正裕		
	授業方法	講義	開講期・年次	前期・2年次	単 位	1
<p><b>授業目標</b></p> <p>わが国の統計調査教育は外国に比して、非常に遅れており、とりわけ文系の福祉や保育教育では、ほとんど系統的に教えられたことがなかった。</p> <p>この科目は地域の実態、児童の発達実態を客観的に正確に把握するのに必要不可欠の道具である。考え方に慣れ親しんで活用できるよう進めていきたい。</p> <p><b>授業内容の計画（8コマ）</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 社会調査、統計法とは</li> <li>2 社会調査の倫理、情報公開と個人情報保護、IT 関連</li> <li>3 量的調査       <ol style="list-style-type: none"> <li>その1 サンプルングと全数調査</li> <li>その2 配布と回収、質問紙の留意点</li> <li>その3 集計と分析（代表値、相関、回帰、推定や検定、多変量解析（ロジスティック分析、分散分析等））</li> </ol> </li> <li>6 質的調査       <p>観察と面接による調査</p> </li> <li>7 データの整理と分析（図表化、グラウンデッドセオリー 他）</li> <li>8 今後の社会調査の方法</li> </ol>						
成 績 評 価 ( 基 準 )		<p>総合評価と出席日数の両方が次の規定に達した場合に認定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合評価は60点以上を合格点とする。</li> <li>・所定の時間数の3分の2以上の出席が必要。</li> </ul> <p>※評価基準 定期試験80%、授業への意欲度 20%</p>				
教室外での 学習について		世の中には様々な調査があるので、興味のある調査をみつけてください。				
教 科 書		『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座5 社会福祉調査の基礎』 (中央法規出版)				
参 考 書						
担当者からの メ ッ セ ー ジ		普段あまり目にしない言葉が出てきますが、1つ1つ丁寧に学んでいきましょう。				

選 択 科 目	授 業 科 目 名	刑 事 司 法 と 福 祉	担 当 教 員	堀 川 茂 野		
	授 業 方 法	講 義	開 講 期 ・ 年 次	前 期 ・ 2 年 次	単 位	1
<b>授業目標</b> 1 刑事司法の近年の動向と制度の仕組みを理解する 2 刑事司法における社会福祉士の役割について理解する 3 刑事司法の制度に関する関係機関等の役割について理解する  <b>授業内容の計画 (8 コマ)</b>  1 「刑事司法と福祉」総論、社会と犯罪 2 犯罪原因論と対策、刑罰とは何か 3 刑事司法、少年司法 4 成人の施設内処遇、少年の施設内処遇 5 更生保護の理念と概要、更生保護の実態 6 精神障害者を対象とした医療観察制度 7 多様なニーズを有する犯罪行為者 (精神障害者、高齢者、障害者、アディクションを抱える人) 8 犯罪被害者等支援、コミュニティと刑事司法						
成 績 評 価 ( 基 準 )		総合評価と出席日数の両方が次の規定に達した場合に認定する。 ・総合評価は60点以上を合格点とする。 ・所定の時間数の3分の2以上の出席が必要。 ※評価基準 定期試験80%、授業への意欲度 20%				
教 室 外 で の 学 習 に つ い て		ありません				
教 科 書		『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 10 刑事司法と福祉』 (中央法規出版)				
参 考 書		指定していません				
担 当 者 か ら の メ ッ セ ー ジ		学習を進めることで、刑事司法と社会福祉の接点が見えてきます				